

K-730

吉原Ⅲ遺跡

店舗建設工事に伴う
発掘調査報告書

2001

株式会社 東北ケーズデンキ
山形市教育委員会

よし はら さん
吉 原 三 遺 跡

店舗建設工事に伴う
発掘調査報告書

平成13年3月

株式会社 東北ケーズデンキ
山形市教育委員会

序

本書は、山形市教育委員会が平成12年度に発掘調査を行った吉原Ⅲ遺跡の調査成果をまとめたものです。

調査では、奈良～平安時代の掘立柱建物跡5棟をはじめ、杭列、土坑、溝跡などが検出され、土器や砥石など当時の生活を物語る貴重な資料を得ることが出来ました。

山形市内には、国指定史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」をはじめ、約300箇所ほどの埋蔵文化財を包蔵する遺跡が確認されています。これらの遺跡は、郷土の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において、住民福祉の向上を目的とした各種の社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。特に、平成5年度以降は、市内各地域で大規模な土地区画整理事業が展開されたこともあり、発掘調査の件数及び調査面積が、急激に増大しているところです。また、史跡「山形城跡」の保存や整備を目的とした発掘調査も、継続されているところです。

本書が、埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いあります。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

山形市教育委員会
教育長 相田良一

例　　言

1 本書は吉原土地区画整理事業地内に計画された株式会社東北ケーズデンキ（仮）ケーズデンキ山形パワフル館建設事業に係る「吉原Ⅲ遺跡」の発掘調査報告書である。

2 調査は株式会社東北ケーズデンキの依頼により、山形市教育委員会が実施した。

3 調査要項は下記の通りである。

遺　　跡　　名 吉原Ⅲ遺跡

所　　在　　地 山形県山形市若宮

調査事業の主体 株式会社東北ケーズデンキ

調査実施の機関 山形市教育委員会

調　　査　　期　　間 現地調査 平成12年4月13日～平成12年5月25日

調　　査　　担　　当　　者 山形市教育委員会文化課　課　　長 石澤孝一郎

　　　　　　課　　長　補　佐 工藤 義夫

　　　　　　文化財係係長 江川 隆

　　　　　　文化財係主事 植松 薫

　　　　　　臨時職員 高橋 拓

4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、株式会社東北ケーズデンキ、若築建設株式会社、山形市吉原土地区画整理組合、山形市立第十中学校等の関係諸機関の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

5 本書の作成・執筆・編集は植松薰が担当した。

6 発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては、以下の方々からご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。（敬称略）

伊藤桂子、岩田 嶽、大津 弘、小笠原吉二、開沼孝子、柏谷和夫、草刈保子、栗原清子、栗原武夫、佐藤和子、関野信子、丹野ヒデ子、丹野 廣、中沢林子、中村達久、布施哲二郎、町田雅樹、三浦優子、水野一男、矢作初子（現地調査）

芦名久子、伊藤真喜子、佐々木郁子、関口幸子（出土遺物整理）

7 出土遺物・調査記録類については、山形市教育委員会文化課が一括保管している。

凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。
S B…掘立柱建物跡 S A…杭列 S K…土坑 S D…溝跡 S P…柱穴・ビット
S G…河川跡 E B…遺構内柱穴 P…土器 S…石
- 2 遺構番号は現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆基準は下記の通りである。
 - (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。
 - (2) グリッドの南北軸はN-9° 1' 52"-Eを測る。
 - (3) 遺構実測図は1/20~1/400の縮図で採録し、各々スケールを付した。
 - (4) 遺物実測図・拓影図は1/2、1/3で採録し、各々スケールを付した。なお、土師器は断面白抜き、須恵器は断面黒ベタとした。
 - (5) 遺物観察表中の計測値欄は()は推定値、<>は残存値を示す。出土地点欄の層位では「F」は遺構覆土内出土、「Y」は遺構底面出土を各示し、ローマ数字「I~IV」等は遺構を覆う土層（基本層序）を示している。
 - (6) 遺物図版については任意の縮尺である。
 - (7) 遺物番号は遺物実測図・遺物観察表・遺物図版ともに共通したものである。遺構揮団中に図示している遺物も同様である。
 - (8) 遺構覆土の色調の記載については1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に掲った。

目 次

| | |
|-------------|----|
| I 調査の経緯 | |
| 1 調査に至る経過 | 1 |
| 2 調査の経過 | 1 |
| II 遺跡の立地と環境 | |
| 1 地理的環境 | 3 |
| 2 歴史的環境 | 3 |
| III 遺跡の概観 | |
| 1 遺跡の層序 | 5 |
| 2 遺構と遺物の分布 | 5 |
| IV 検出された遺構 | |
| 1 掘立柱建物跡 | 9 |
| 2 土坑 | 10 |
| 3 杭列・溝跡 | 18 |
| 4 柱穴・ピット | 22 |
| 5 河川跡 | 22 |
| V 出土した遺物 | 27 |
| VI まとめ | 45 |
| 報告書抄録 | 46 |

表

| | |
|---------------|----|
| 表1 出土遺物観察表（1） | 42 |
| 表2 出土遺物観察表（2） | 43 |
| 表3 出土遺物観察表（3） | 44 |

挿 図

| | | |
|------|--------------------------------|----|
| 第1図 | 遺跡位置図 | 2 |
| 第2図 | 調査概要図 | 4 |
| 第3図 | 基本層序 | 6 |
| 第4図 | 遺構配置図 | 7 |
| 第5図 | S B 196掘立柱建物跡 | 11 |
| 第6図 | S B 232掘立柱建物跡 | 12 |
| 第7図 | S B 5掘立柱建物跡 | 13 |
| 第8図 | S B 202・203掘立柱建物跡 | 14 |
| 第9図 | S K177・186土坑 | 15 |
| 第10図 | S K191土坑・S P 201柱穴 | 16 |
| 第11図 | S K277・279土坑・S P 240・197-271柱穴 | 17 |
| 第12図 | S A 282杭列・S D 235溝跡 | 19 |
| 第13図 | S D 95・233溝跡 | 20 |
| 第14図 | S D 157・178・256溝跡 | 21 |
| 第15図 | S P 72・73他柱穴・ピット | 23 |
| 第16図 | S P 160・188他柱穴・ピット | 24 |
| 第17図 | S P 238・266他柱穴・ピット | 25 |
| 第18図 | A・B区 S G河川跡 | 26 |
| 第19図 | S K177出土遺物 | 30 |
| 第20図 | S K177出土遺物 | 31 |
| 第21図 | S K186出土遺物 | 32 |
| 第22図 | S K186・191出土遺物 | 33 |
| 第23図 | S K191・遺構出土遺物 | 34 |
| 第24図 | 遺構・A区 S G出土遺物 | 35 |
| 第25図 | A区 S G出土遺物 | 36 |
| 第26図 | B区 S G出土遺物 | 37 |
| 第27図 | B区 S G出土遺物 | 38 |
| 第28図 | B区 S G出土遺物・グリッド出土遺物 | 39 |
| 第29図 | グリッド出土遺物 | 40 |
| 第30図 | グリッド・表土出土遺物 | 41 |

図 版

| | | | |
|------|-----------------|------|----------|
| 図版1 | C区遺構検出 | 図版11 | 出土遺物(2) |
| 図版2 | 表土除去状況他 | 図版12 | 出土遺物(3) |
| 図版3 | S B 196調査状況他 | 図版13 | 出土遺物(4) |
| 図版4 | S B 232完掘状況他 | 図版14 | 出土遺物(5) |
| 図版5 | S B 5検出状況他 | 図版15 | 出土遺物(6) |
| 図版6 | S B 203E B土層断面他 | 図版16 | 出土遺物(7) |
| 図版7 | S K186検出状況他 | 図版17 | 出土遺物(8) |
| 図版8 | S A 282検出状況他 | 図版18 | 出土遺物(9) |
| 図版9 | S D 233検出状況他 | 図版19 | 出土遺物(10) |
| 図版10 | 出土遺物(1) | 図版20 | 出土遺物(11) |

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

吉原Ⅲ遺跡は平成9年度に吉原Ⅱ遺跡の範囲確認を実施した際に発見された遺跡である。試掘調査により、掘立柱建物跡などの遺構、須恵器などの遺物が確認され、吉原Ⅱ遺跡とは連続しない事から新たに吉原Ⅲ遺跡として登録を行った。

翌平成10年度、遺跡内に都市計画道路の工事が計画され、予定地内について再度試掘調査を行い、平成11年度に記録保存のための発掘調査を実施した。その結果、奈良～平安時代の掘立柱建物跡10棟、杭列跡1条など多数の遺構、須恵器や土師器などの遺物が検出され、貴重な資料を得ることができた。

平成12年3月、本遺跡内に株式会社東北ケーズデンキ、(仮)ケーズデンキ山形パワフル館建設事業が計画された。事業が係る部分については平成11年度に発掘調査を実施した調査区の南に隣接し、当然遺構・遺物等の広がりが予想される地区でもあった。

遺跡の取り扱いについて協議と調整を重ねた結果、遺跡に影響が及ぶ建築物の基礎部分について面的な発掘調査を実施し、記録保存を図ることが必要と判断された。そこで株式会社東北ケーズデンキの依頼を受けて、山形市教育委員会が発掘調査を実施することになったものである。

2 調査の経過

発掘調査は平成12年4月13日～5月25日までの実質28日間実施した。調査面積は建築物の基礎に係る部分で、約640m²である。

4月13日に発掘器材の搬入及び環境整備を行う。造成工事の都合上、4月13～5月2日までの前期と5月8日～5月25日までの後期とにそれぞれ西側、東側に調査区を分割しての調査となった。調査区は調査の便宜上北からA～C区とした。

調査区を覆う座標は建築物の基礎が入る部分の測量杭を南北の基準とし、それと直交する線を東西軸とした。これを起点として5m四方の方眼(グリッド)を設定した。東西軸は5～20まで、南北軸は5～12まで付番して「5-6」のように表記した。方眼の南北軸はN-9° 1' 52"-Eを測る。

調査は重機による表土除去終了後、A区から開始し面精査を繰り返しながら遺構検出・マーキングを行い、遺構概略図を作成した。その後、遺構検出状況の写真撮影、遺構登録・遺構精査を行った。遺構の精査は土層観察のために各遺構にあわせて半截及び土層を帶状に残すなどしている。併行して、遺構の平面図・断面図の作成、遺物の検出および登録、写真撮影、土層注記等の記録作業、遺物取上げなどを行った。調査が前期と後期に分かれていたため、それぞれの調査が終了した段階で各調査区について重機による埋め戻しを行い、調査終了とした。



第1図 遺跡位置図 (S=1:25,000)

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

吉原Ⅲ遺跡の所在している山形市は山形盆地の東南部に位置する。山形盆地は南北40km、東西10kmの南北に長い舟底形の盆地である。

本遺跡は山形市の南部、市街地から約3km離れた山形市若宮地内に所在する。山形市街地は馬見ヶ崎川扇状地上に発展し、東の奥羽山脈から盆地西側を北流する須川に向かってやや傾斜する地形となっている。本遺跡は馬見ヶ崎川扇状地の扇端部にあたり、遺跡は須川右岸の微高地上に立地している。

本地区は北側を大川、南側を竜山川が西流しており、須川及び大川、竜山川の三河川に挟まれた地域に所在する。遺跡範囲は東西約140m、南北約110mに広がり、付近の標高は121～122mを測る。

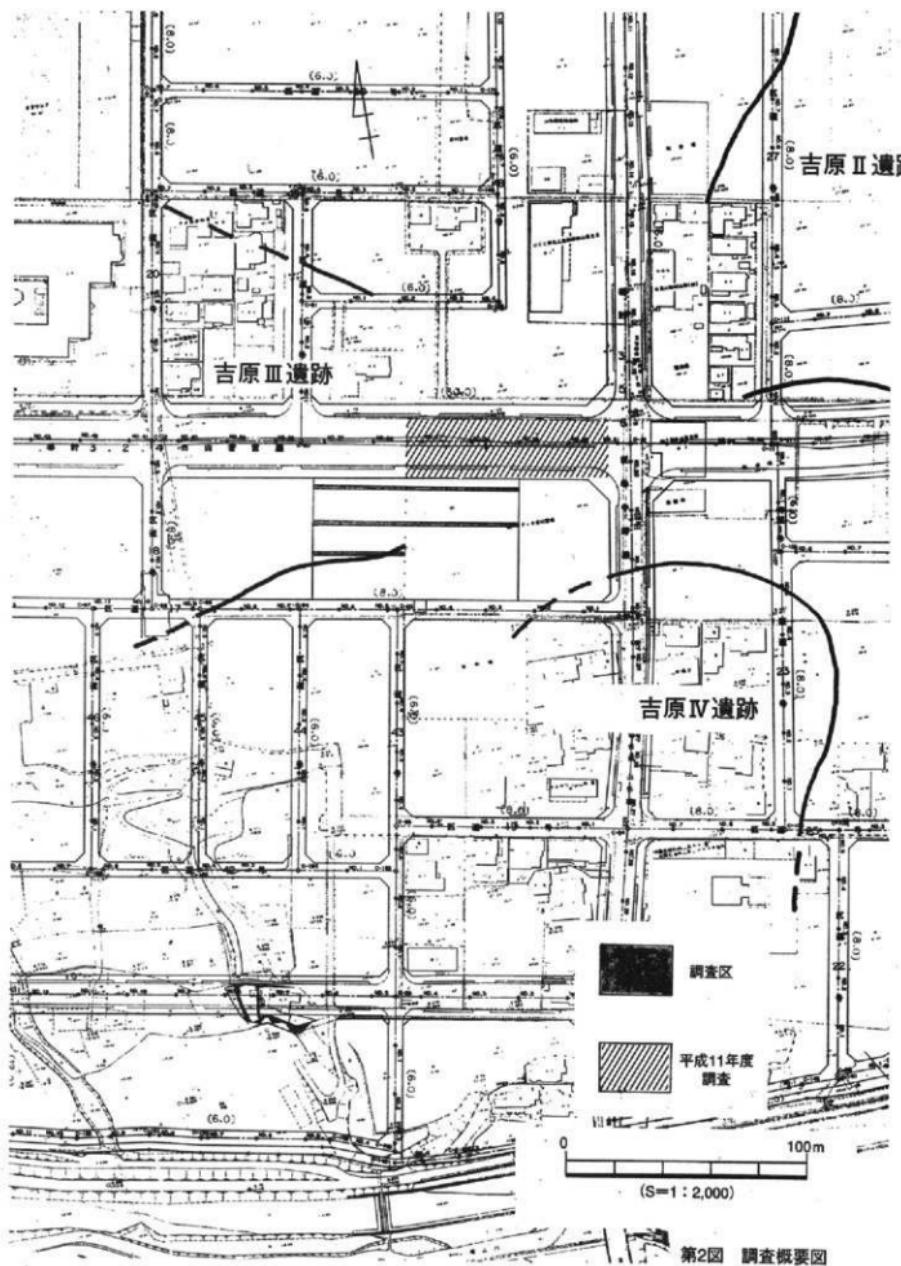
地目は水田となっているが、東側は碎石による盛土が行われ、近年はリース会社、資材置き場などとして利用されていた。また西側は休耕地となっている。

2 歴史的環境

吉原地区内には吉原Ⅰ～Ⅶ、若宮の櫛跡の計8遺跡が確認されている。吉原Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ、Ⅶ遺跡は奈良～平安時代の遺跡で特にⅠ～Ⅳ遺跡は吉原遺跡群として全体的な捉え方が必要な遺跡と考えられる。特に吉原Ⅱ遺跡では1m前後の掘り方を持つ掘立柱建物跡が確認されており、建物の規模や配置などから官衙的な施設である可能性が検討されている。また、吉原Ⅴ遺跡は縄文時代中期の遺跡で平成9年度発掘調査がなされている。若宮の櫛跡は平成10・11年度の発掘調査が行われ、堀跡や掘立柱建物跡などの遺構が検出された。

本遺跡と同様、市内南部で確認されている遺跡は、須川両岸とも扇状地の扇端部付近に比較的多く立地している。双葉町遺跡、山形西高敷地内遺跡などは縄文、古代、中世、近世など複数の時代にわたる遺構・遺物が検出されている。本遺跡の約1.5km南方に位置する成沢西遺跡では平安時代の三面に廟を持つ大型の掘立柱建物跡が検出されており、その当時の有力者の居宅あるいは官衙的な施設と推定されている。また、柏倉亮吉氏によれば南館から富の中にかけての一帯は条里制の痕跡が認められるとの研究がなされている。

須川左岸地域では白鷹山丘陵より東流する富神川、本沢川などの形成した扇状地上に縄文時代から古代にかけての遺跡が多く分布している。丘陵には二段構築円墳で武人型埴輪などを出土している菅沢二号墳を中心とする菅沢古墳群、大ノ越古墳群、谷柏古墳群など多くの古墳群が点在し、あわせて萩原遺跡や谷柏遺跡など古墳時代の集落跡も確認されている。また、この地域は奈良～平安時代の遺跡も多く、条里遺構も広範囲に分布する。近年調査された石田遺跡では、掘立柱建物跡と周囲施設が検出され、吉原Ⅰ遺跡と時期、遺跡内容も類似する。小松原から上山西部丘陵には奈良～平安時代初頭の窯跡群が8地点で確認されており、オサヤズ窯跡や小松原窯跡などが調査されその内容が明らかになりつつある。



第2図 調査概要図

III 遺跡の概観

1 遺跡の層序

今回の調査区は遺跡範囲の中央やや南部に位置する。地形的には馬見ヶ崎川扇状地扇端部にあたり、東から西に向けて緩やかに傾斜している。遺跡範囲は宅地、及び水田として利用されているが、調査区の西半は休耕地、東半は近年盛土されリース会社、資材置き場などになっていた。

調査区内で観察された基本的な層序は近年の碎石による盛土部分を除けば、概ね4層に大別される。I：暗褐色土（耕作土）、I'：灰黃褐色土（耕作土）、II：暗褐色粘質土（旧耕作土）、II'：灰黃褐色土（旧耕作土）、III：黒褐色粘質土（遺物包含層）、IV：褐色粘質土（地山）となる。

I層は表土・耕作土、II層は旧耕作土である。I'、II'層は上部の盛土に影響されてか灰色を帯びた色調となっているが水田耕作土で、基本的にI、II層にそれぞれ対応するものと考えられる。III層は部分的に見られる層で耕地整理などの際に既に削平されている。

I～II層からの遺物の出土は少なく、遺物包含層であるIII層から比較的多く遺物が出土し、特にA区からの出土が多い。遺構の検出面はIV層上面である。

2 遺構と遺物の分布

遺構は調査区全域に分布するがA区からC区へと南に向かって遺構・遺物ともに密度が希薄になる。これは地山が南にいくにつれて粘性を帯び、水分を多く含む状況を呈することから居住域とするには適さなかった事が考えられる。

検出された遺構は掘立柱建物跡5棟、土坑、杭列跡、溝跡、河川跡、柱穴・ビット等総数203基を登録した。

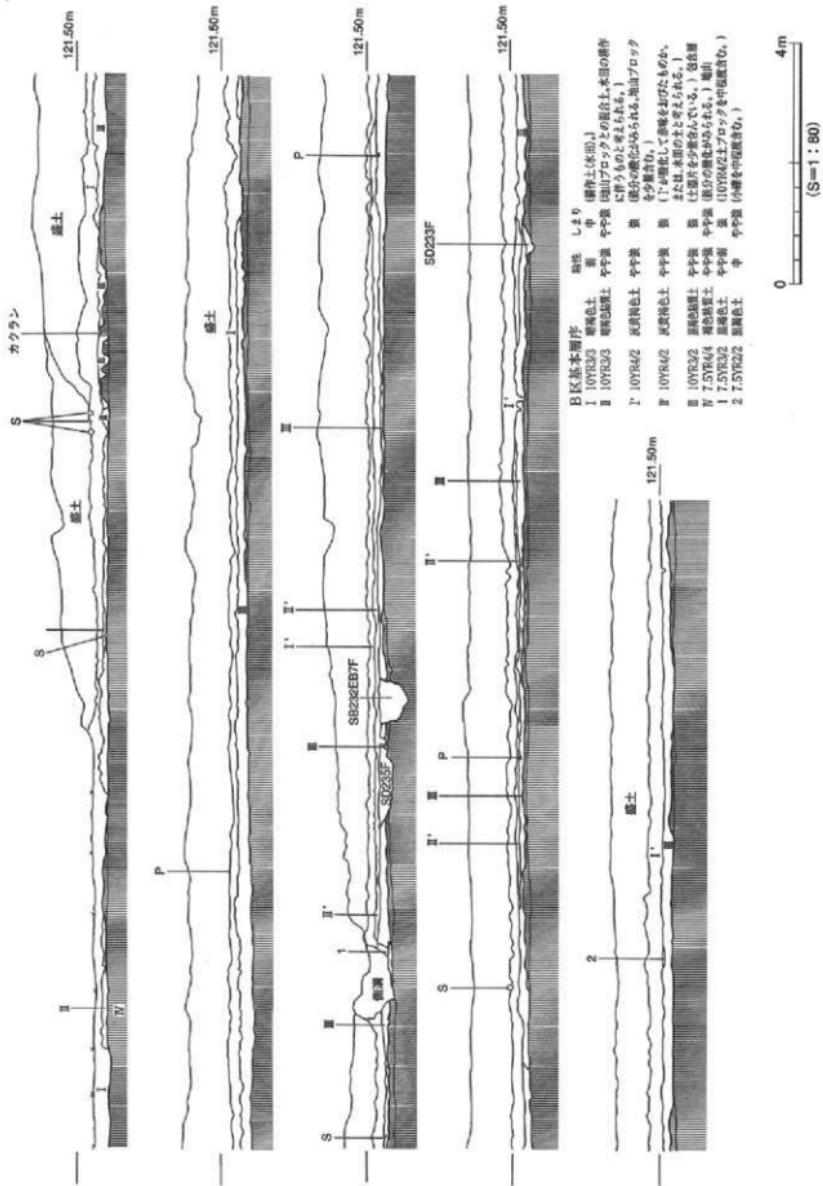
特に平成11年度調査時に検出された遺構の続きである掘立柱建物跡（S B 5）や杭列跡（S A 282）、河川跡（S G）が確認されたことにより、遺構の分布状況が更に明確になり、本遺跡の集落構成がより具体的に把握できるようになった。

具体的には掘立柱建物跡はA区に集中して検出され、B区には1棟のみの確認である。杭列跡はA区で検出され、A区の15—11グリッド付近で南西に向かって屈曲することが確認された。また、河川跡はA、B両調査区で検出され、いずれも確認面からの深さは浅いものの遺物が多く出土した。

出土遺物は土器が大半で、遺構同様、調査区全域で出土するものの南に向けて出土量が少なくなる。

特に土坑や河川跡からの出土が2/3を占める。器種構成では土師器に比して須恵器が少ない。出土土器破片総数の比率では土師器が77%、須恵器が23%で、また器種別でみれば、須恵器では壺などの供膳具、土師器では煮炊具が大勢を占める。

以上のことから今回の調査区のA、B区は集落の主体部に関連し、C区については集落の縁辺にあたると考えられる。



第3図 基本層序

第4图

20m
(S=1:300)



IV 検出された遺構

1 堀立柱建物跡（第5～8図）

堀立柱建物跡として確認されたものは5棟である。この他にも多数の柱穴・ピットを検出したが、積極的に建物跡とするには至らなかった。以下に各建物跡について概述する。

S B 196(第5図) A区西端、6～7-11～12グリッドに位置する。南半は調査区外となり全体の規模は不明である。梁行約4.5m(約15尺)、桁行1.8m(6尺)以上を測る2×1間以上の建物跡で、主軸方位はN-2°-Eを測る。柱間は梁行220～230cm(約7.5尺)、桁行180cm(6尺)を測る。この建物跡は全ての掘り方に切りあいがみられ、建て替えが行われたものと考えられる。総柱建物か、側柱建物かを判断するために一部拡張したところ、E B 5が検出され、側柱建物であることが判断された。

掘り方は平面形が隅丸方形や不整形を呈し、直径は90～120cmを測り、検出面からの深さは50～65cmである。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。柱痕跡はE B 1～3で確認され、直径20cm前後を測る。E B 2からはクリ材を使用した柱根が検出された。また、E B 3からは柱痕跡の下部に直径10～20cm大の礫が検出されており、柱の高さの調整かまたは根固め用と考えられる。遺物はE B 2の旧掘り方の底面より、体部外面が手持ヘラケズリされた内黒土師器の平底の底部片(24-80)が出土している。

S B 232(第6図) B区中央部、13～14-8～9グリッドで検出された。南北の両側とも調査区外に伸びているため、全体の規模は不明であるが柱穴の配置等から建物跡とした。梁行約4.6m(15尺)、桁行約3.2m(約10尺)以上を測る2×1間以上の建物跡で、主軸方位はN-1°-Eを測る。柱間は梁行がE B 2～E B 3、E B 4～E B 5が約170cm(約5.5尺)、E B 3～E B 4が110cm(約3.7尺)、桁行がE B 1～E B 2、E B 5～E B 6が115cm(約3.8尺)、E B 2～E B 8、E B 5～E B 7が約200cm(約6.7尺)を測る。

掘り方は平面形が隅丸方形や不整形を呈し、直径は70～85cmを測り、検出面からの深さは25～60cmである。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、平面はほぼ平坦である。柱痕跡はE B 2、3、4、6で認められ、直径15cm前後を測る。その他は未検出である。遺物は回転ヘラ切りの須恵器壺底部片、土師器甕片が出土している。

S B 5(第7図) A区西端、20～21-11～12グリッドで検出された。柱穴跡の規模及び間尺などから平成11年度調査時に検出されたS B 5堀立柱建物跡(E B 1～3のみ検出)の延長部と判断された。南端が調査区外となるため建物跡の規模は不明である。梁行約3.8m(約12.7尺)、桁行約5.1m(17尺)以上を測る2×2間以上の建物跡で、柱間は梁行約200cm(約6.7尺)、桁行E B 1～E B 7が300cm(10尺)、E B 7～E B 8が約210cm(7尺)を測る。掘り方の平面形は略円形を呈し、柱痕跡はE B 6、7で確認され、直径10cm前後を測る。その他は未検出である。遺物は出土していない。

S B202(第8図) A区、8-11~12グリッドで検出された。南北とも調査区外に伸びているため全体の規模は不明である。梁行約2.7m(9尺)、桁行約1.95m(6.5尺)以上を測る1×1間以上の建物跡で、東側に1間分廂が付く。主軸方位はN-0°30'-Eを測る。廂の柱間は約60cm(2尺)である。

掘り方の平面形は隅丸方形及び略円形を呈し、柱痕跡は未検出である。遺物はEB3、4、6より須恵器蓋、壺、土師器片が出土した。

S B203(第8図) A区、9-11~12グリッドで検出された。南北とも調査区外に伸びているため全体の規模は不明である。梁行約3.3m(11尺)、桁行約2.1m(7尺)以上を測る1×1間以上の建物跡で、主軸方位はN-2°30'-Eを測る。

掘り方の平面形は略円形で、直径30~40センチ前後を測る。柱痕跡はEB2、3で確認され、直径10~15cmを測る。遺物はEB2、3より須恵器壺・甕、土師器壺・甕片が出土した。

2 土坑(第9~11図)

土坑として登録した構造は7基であり、A区を主に検出された。以下主なものについて、構造登録順に概述する。

S K177(第9図) A区、9-11~12グリッドに位置する。SP199、SP198と重複関係にあり、SD175を切っている。北側は調査区外となり全体の規模は不明であるが、南北は現存長で約205cm、東西約280cm、検出面からの深さ約20cmを測る。平面形は円形で、壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。主に土坑北側のF2層中より遺物が出土している。

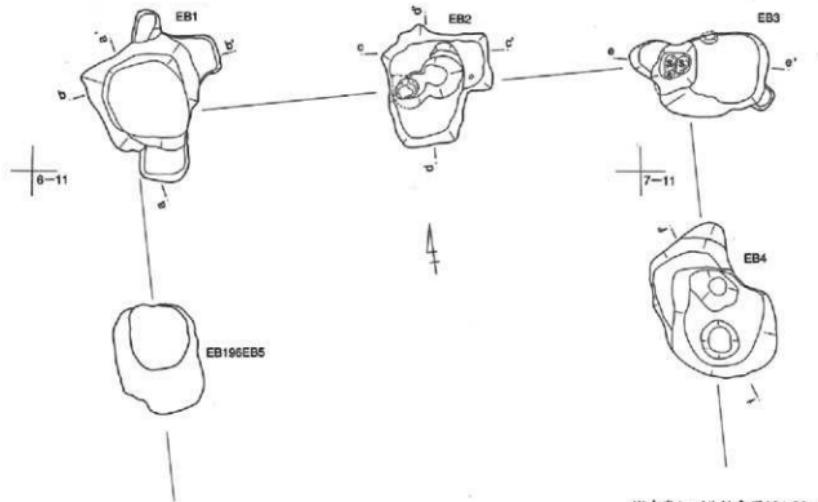
S K186(第9図) A区、10-12グリッドに位置する。北端は調査区外となっているが、長軸145cm、短軸約105cm、検出面からの深さ23cmを測る。平面形は梢円形を呈すると考えられる。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦であるが北側は一段低くなる。覆土中より、土師器、須恵器片が多数出土している。

S K191(第10図) A区中央、9-10-11-12グリッドに位置する。SP201に切られている。北側は調査区外となるため全体の規模は不明であるが、南北は現存長で約100cm、東西が約400cm、検出面からの深さは約20cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面はやや凹凸がある。覆土は基本的に2層からなり、主にF1層中より須恵器、土師器片が出土している。SP201は柱穴跡で、須恵器壺底部片が覆土上層より出土している。

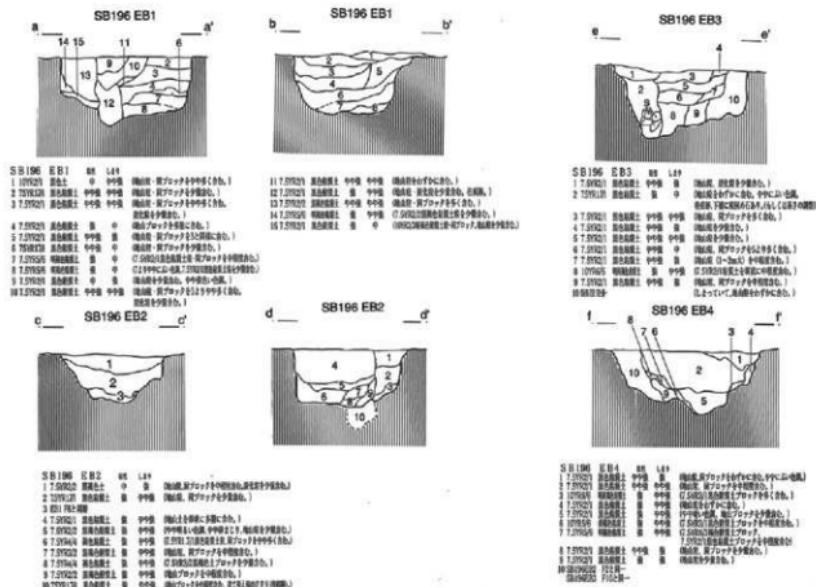
S K277(第11図) A区、19-11グリッドに位置する。平面形は梢円形を呈し、長軸110cm、短軸約82cm、検出面からの深さ20cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面は平坦である。遺物は内黒土師器片(24-79)、土師器壺・甕片が出土している。

S K279(第11図) A区、19-11グリッドに位置する。平面形は梢円形を呈し、長軸94cm、短軸約66cm、検出面からの深さ33cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面は平坦であるが、やや西側に傾斜する。遺物は内黒土師器片、土師器甕底部片(24-83)が出土している。

SB196

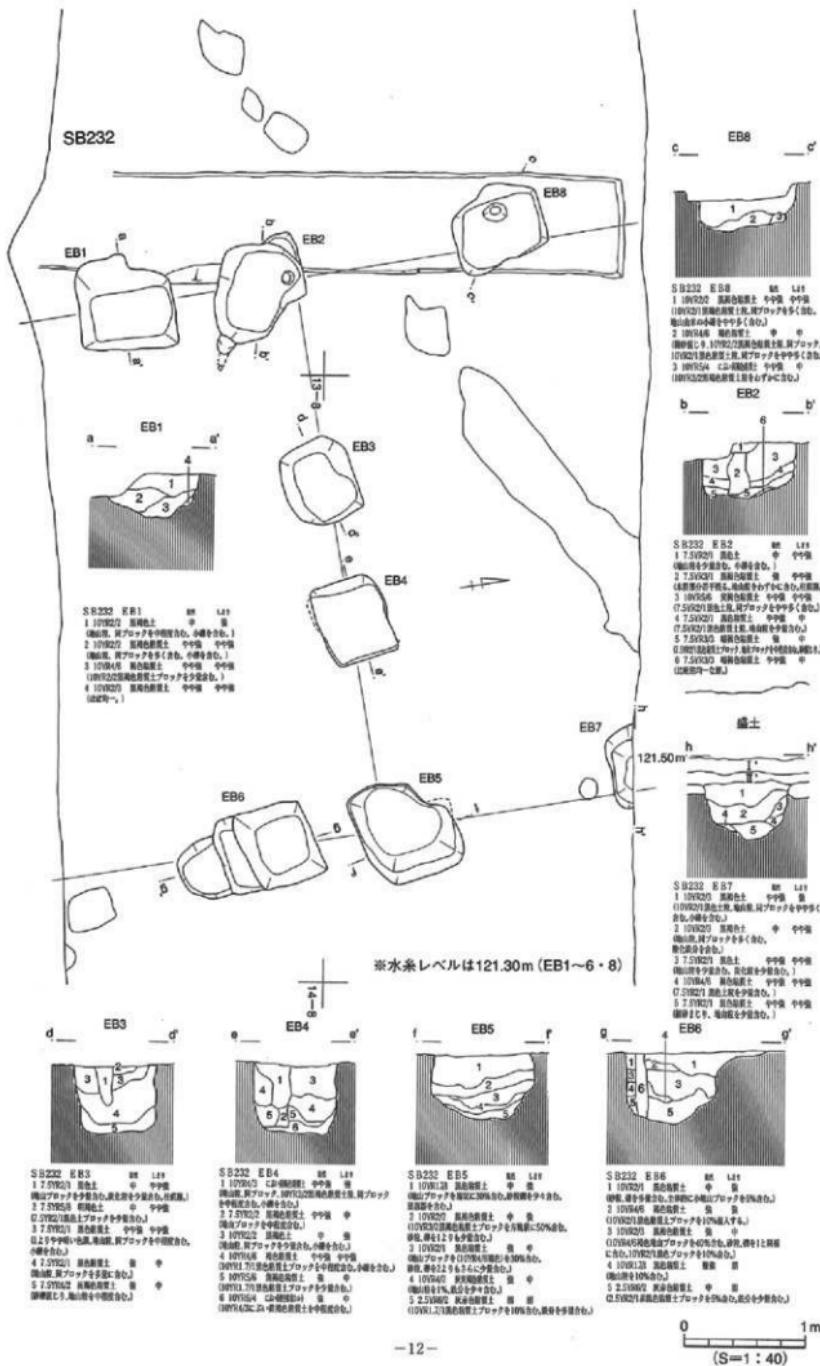


※水系レベルは全て121.20m



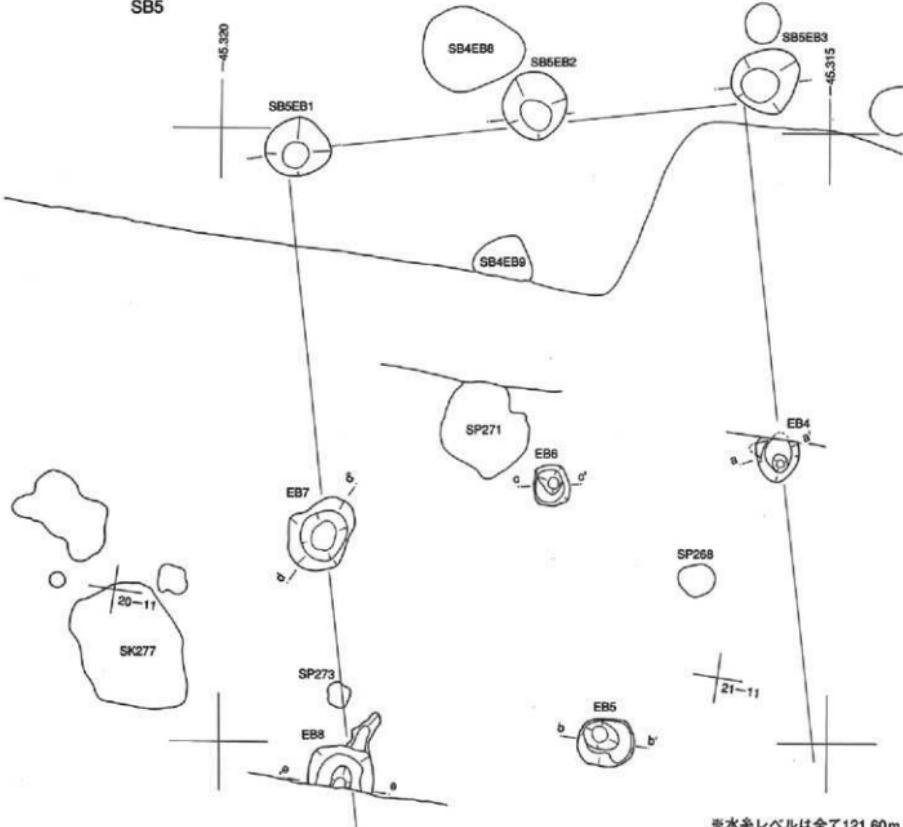
0
(S=1:40)
2m

第5図 SB196掘立柱建物跡



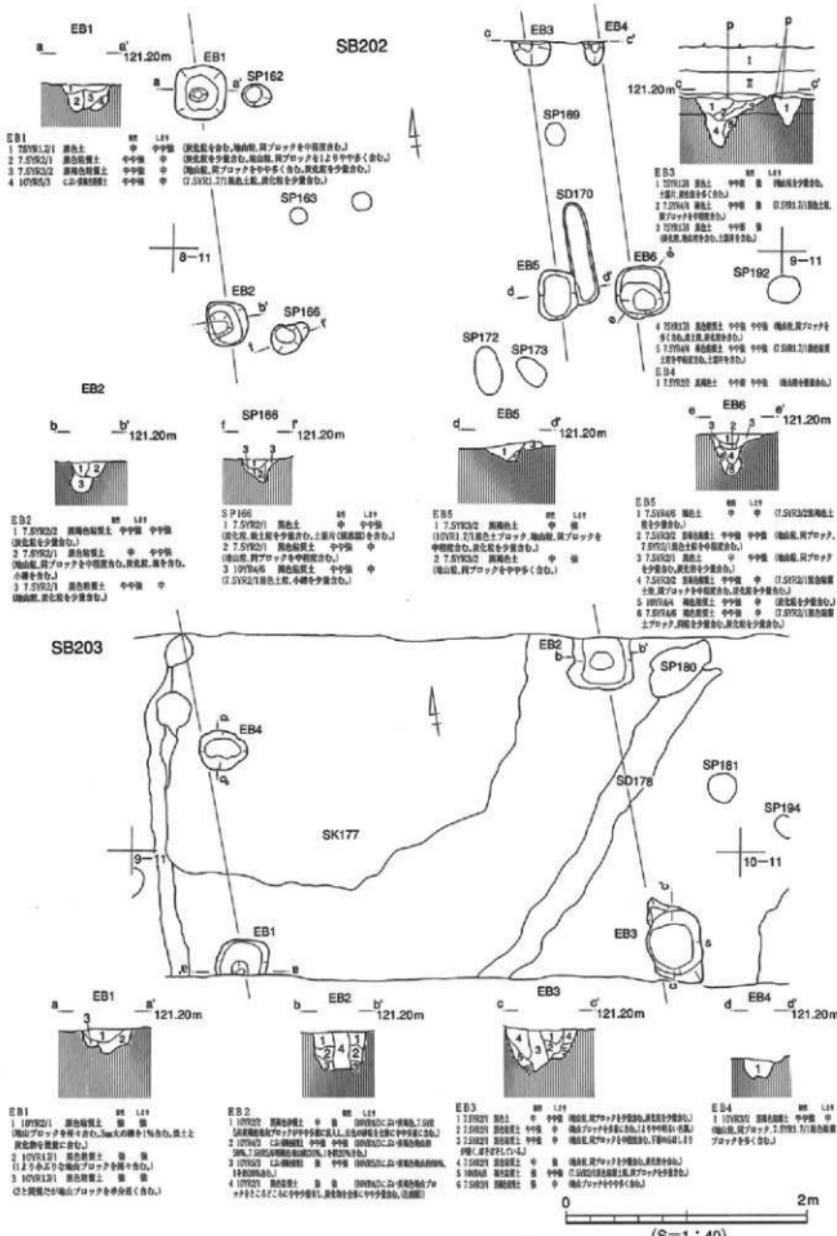
第6図 SB232掘立柱建物跡

SB5

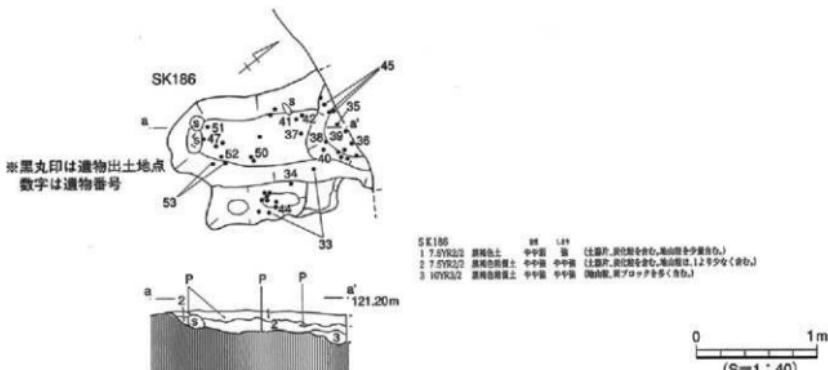
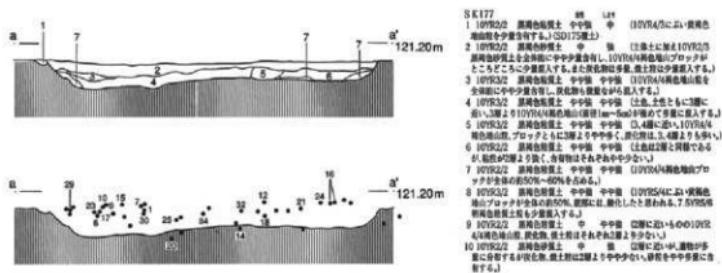
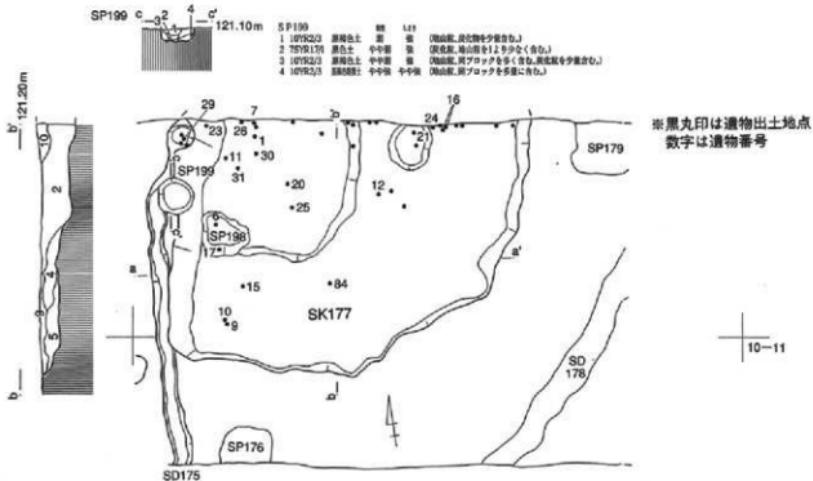


| | EB4 | EB5 | EB6 | EB7 | EB8 |
|---------|--|--|--|--|--|
| 1 10V22 | 褐色粘土質 地盤、厚さ約 10cm、層内に ブロックを1%含む。 砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 1 10V23 褐褐色土 中 砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 1 10V24 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 1 10V25 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 1 10V26 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) |
| 2 10V22 | 褐色粘土 中 中砂 (0.05%~0.7%褐色 土ブロックを5%含む。) 12.9%砂利 12.9%石子) | 2 10V24 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 2 10V25 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 2 10V26 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 2 10V27 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) |
| 3 10V23 | 褐色粘土 中 中砂 (0.05%~0.3%褐色 土ブロックを5%含む。) 12.9%砂利 12.9%石子) | 3 10V25 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 3 10V26 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 3 10V27 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 3 10V28 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) |
| 4 10V24 | 褐色粘土 中 中砂 (0.05%~0.3%褐色 土ブロックを5%含む。) 12.9%砂利 12.9%石子) | 4 10V26 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 4 10V27 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 4 10V28 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 4 10V29 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) |
| 5 10V25 | 褐色粘土 中 中砂 (0.05%~0.3%褐色 土ブロックを5%含む。) 12.9%砂利 12.9%石子) | 5 10V27 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 5 10V28 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 5 10V29 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) | 5 10V30 褐褐色土 中 中砂 (地盤を1%含む。砂利と3cmの大 きな石子を含む。) |

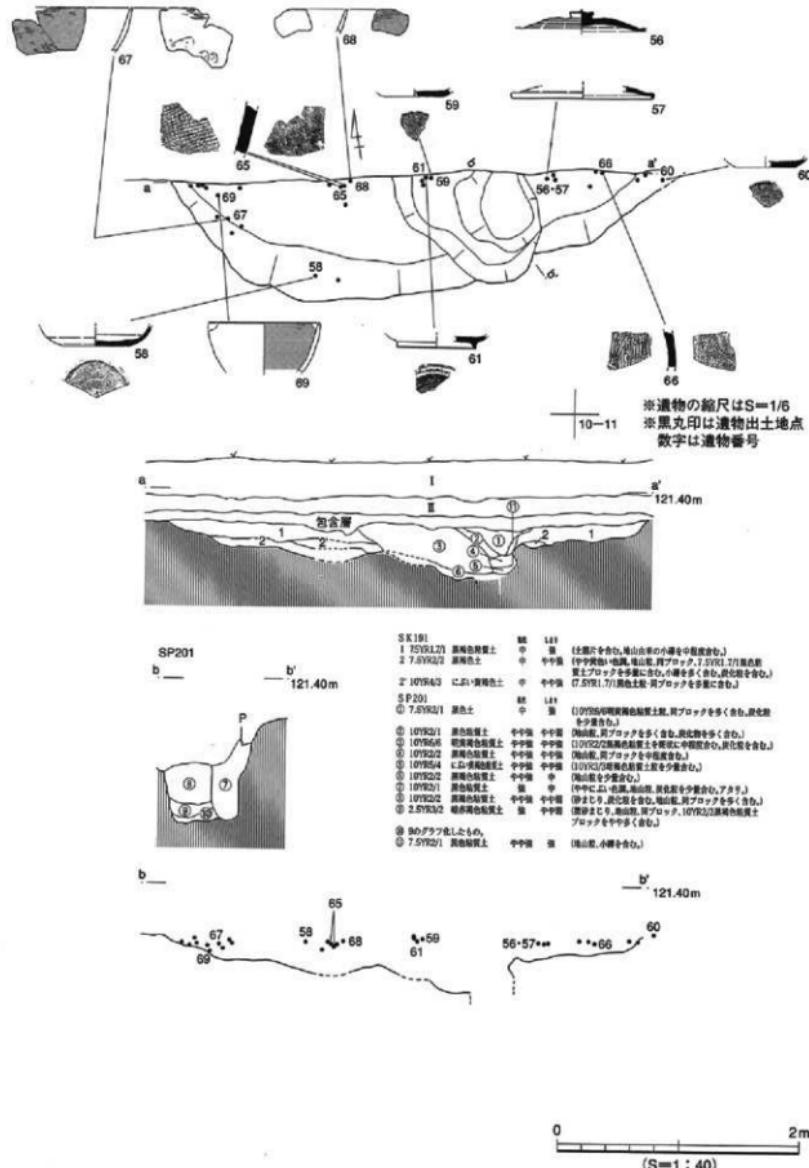
第7図 SB5据立柱建物跡



第8図 SB202・203掘立柱建物跡

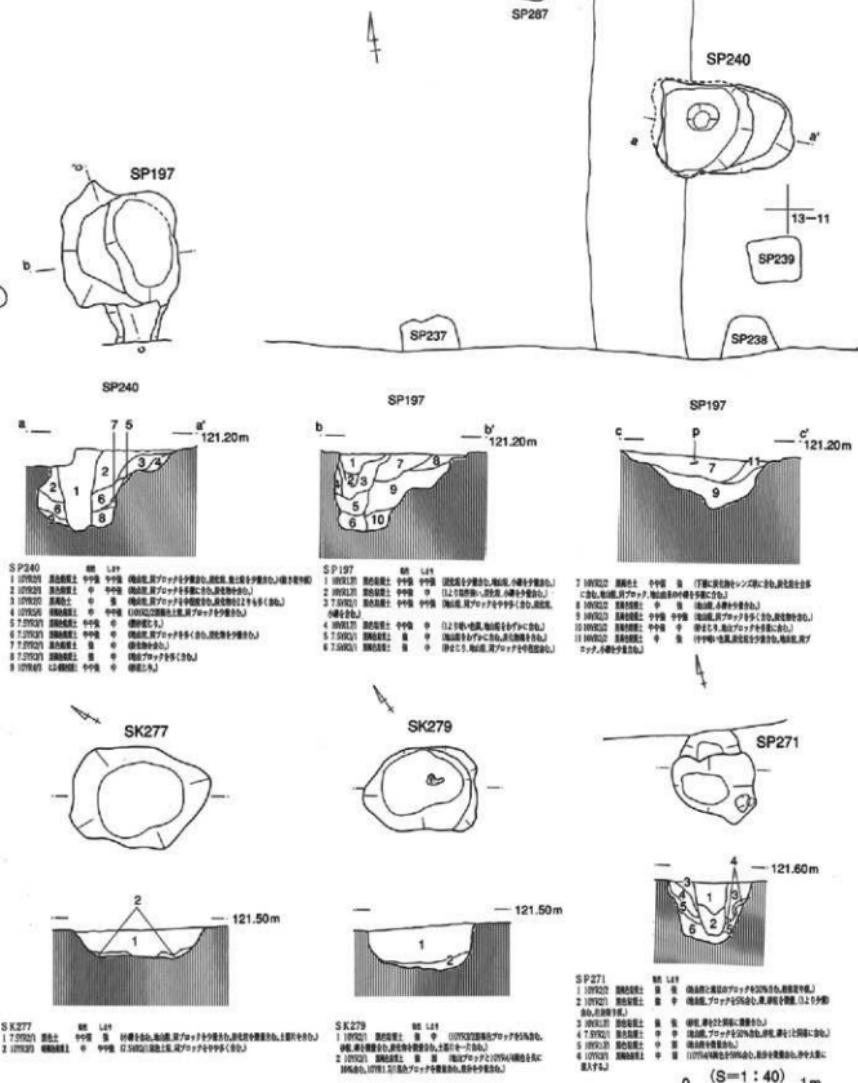


第9図 SK177・186土坑



第10図 SK191土坑・SP201柱穴

調査区外



第11図 SK277, 279土坑、SP240, 197, 271柱穴

3 杭列跡・溝跡

S A282(第12図) A区、14~15-11~12グリッドに位置する。平成11年度調査時にS A30として登録した遺構と同一の遺構である。15-11グリッド付近で西に向かってほぼ直角に屈曲する。

掘り方の幅は約20~45cm、長さは検出長で約530cm、検出面からの深さは15~20cmを測る。主軸方向は東西軸でN-75°-Eを測る。検出面より10~15cmほど掘り下げた段階で直径10cm前後の円形の杭跡が検出された。杭跡の間隔は不規則で、北東部及び南端部の各2ヶ所では、幅10cm前後、厚さ25cm弱の板材状の痕跡も検出された。板材状の痕跡と円形の杭跡は互いに切合い等はないため、同時期に存在したものと考えられる。

土層断面及び床面に検出された杭痕跡の観察では、杭痕跡の周囲に掘り方が確認されなかつたため、杭は打ち込まれたものと考えられる。

遺物は未検出であるが、覆土などの状況から他の掘立柱建物跡や土坑などと同時期に属するものと判断される。

S D235(第12図) A区、12~13-8~9グリッドで検出された。S B232と重複関係にあるが遺構の直接的な切りあいはなく、新旧関係は不明である。北東から南西に伸びる溝跡で幅50cm前後、検出面からの深さは10cm前後を測る。壁は緩やかに掘り込まれる。覆土は5層からなり、暗褐色及び黒褐色砂質土を基調とし、小礫、砂礫を含んでいる。A、B区で検出されたS Gと覆土が類似し、一連の遺構と考えられる。遺物は未検出である。

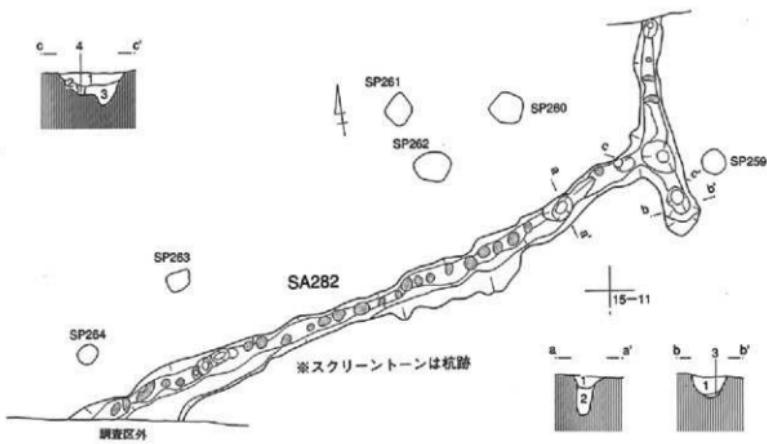
S D95(第13図) C区、8~9-5~6グリッドに位置する。南北ともに調査区外となるが、北東から南西に伸びる溝跡で前述のS D235と覆土、溝幅、検出された位置から見て同一の遺構と考えられる。幅は30~60cm、検出面からの深さは8cm前後である。壁は緩やかに掘り込まれ、底面は凹凸がある。遺物は未検出である。

S D233(第13図) B区、18~19-8~9グリッドに位置する。南北は調査区外となるが北西から南東に伸びる溝跡で、幅23~58cm、検出面からの深さ5cm前後を測る。

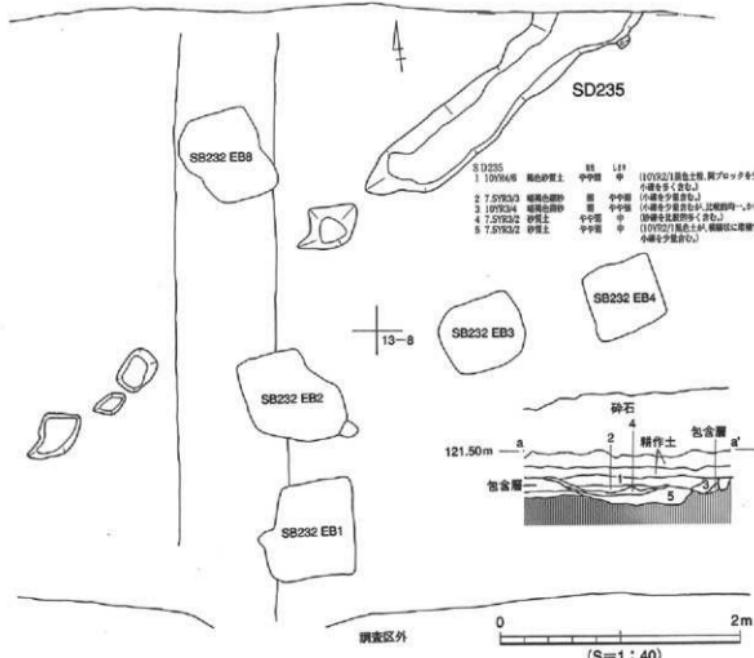
S D157(第14図) A区、7-11~12グリッドで検出された。S P159と重複し、南端は調査区外に伸びる。幅は31~45cm、検出面からの深さは10cm前後である。覆土上層より須恵器双耳壺(23-73)が出土している。

S D178(第14図) A区、9-10~11グリッドに位置する。S P180に切られている。南北は調査区外となるが北東から南西に伸びる溝跡で、幅20~30cm、検出面からの深さは8cmを測る。遺物は未検出である。

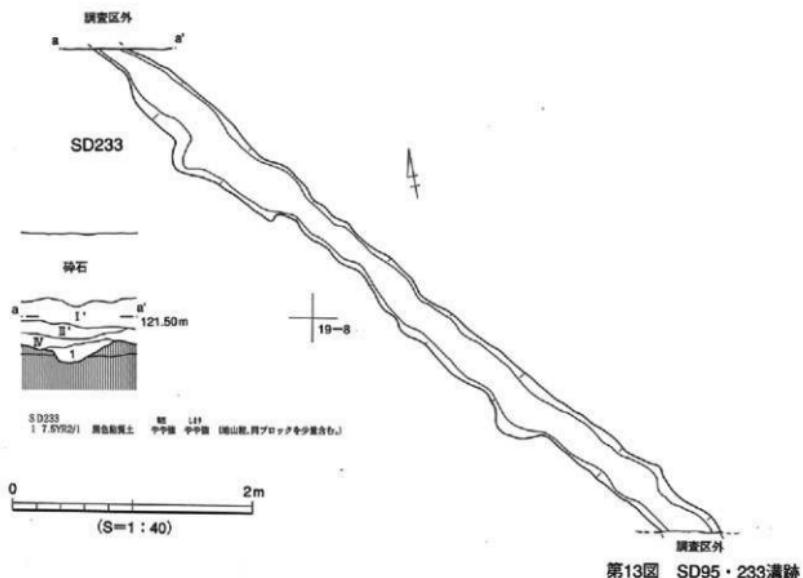
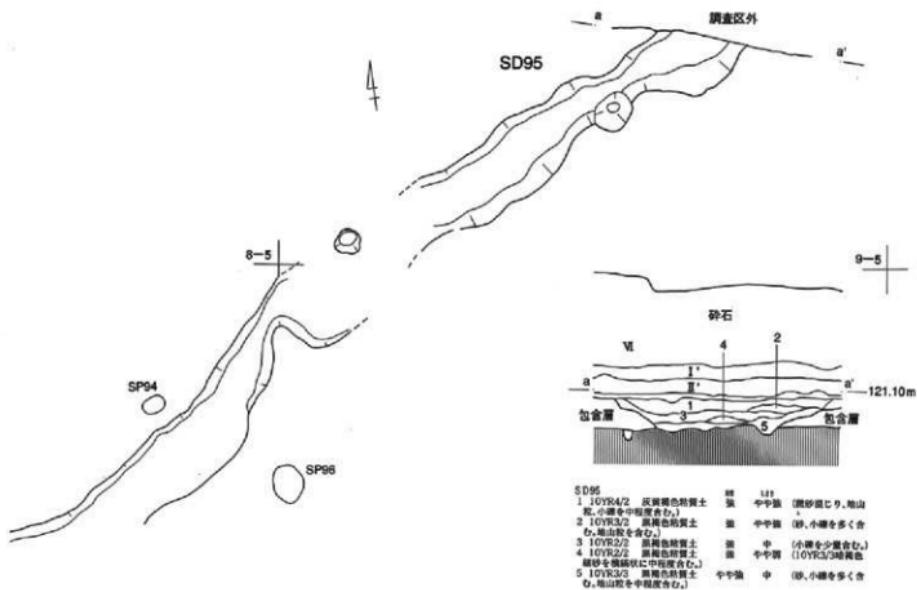
S D256(第14図) A区、15-11~12グリッドに位置する。S P255に切られる。北西から南東に伸びる溝跡で、幅13~21cm、長さ、約230cm、検出面からの深さ5cm前後を測る。覆土は黒色土の単層である。遺物は未検出である。

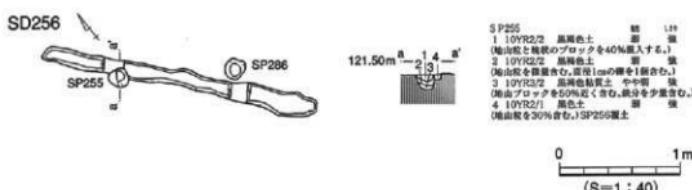
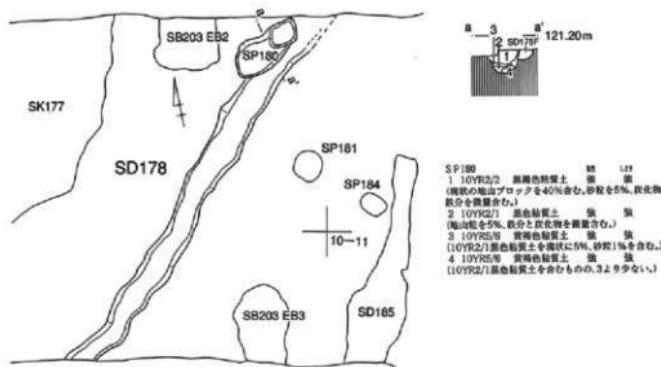
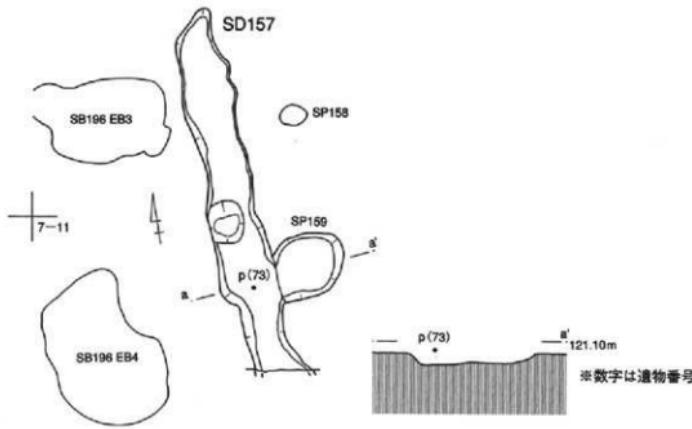


SA282
 1 1092/2 黄褐色粘土質土 中 L11
 (山地風、鉄プロックを少程度含む)
 2 1092/4 黄褐色粘土質土 中 中等強
 (1092/2用黄色土を含む中程度含む)
 3 1092/3 黄褐色土 中等強
 (1092/2用黄色土を含む鉄プロック、山地風、鉄プロックを多く含む)
 4 1092/1 黄土土 中 中
 (1092/1用黄色土が、山地風に影響する)



第12図 SA282杭列・SD235溝跡





第14図 SD157・178・256溝跡

4 柱穴(第10・11・15~17図)

柱穴として登録した遺構は181基である。その大半はA区に集中するが、建物を構成するには至らなかった。遺構精査時及び土層断面等の確認により、A類：柱痕跡が確認されたもの、B類：柱抜き取り痕が確認されたもの、C類：柱痕跡、抜き取り痕共に未確認のものの3分類に大別される。

A類：S P 180 B類：S P 197、201、240、271 C類：S P 135、148、149、151、159、160、166、229、234、236、266、238、239、241~245、255、261、265、268

5 河川跡(第18図)

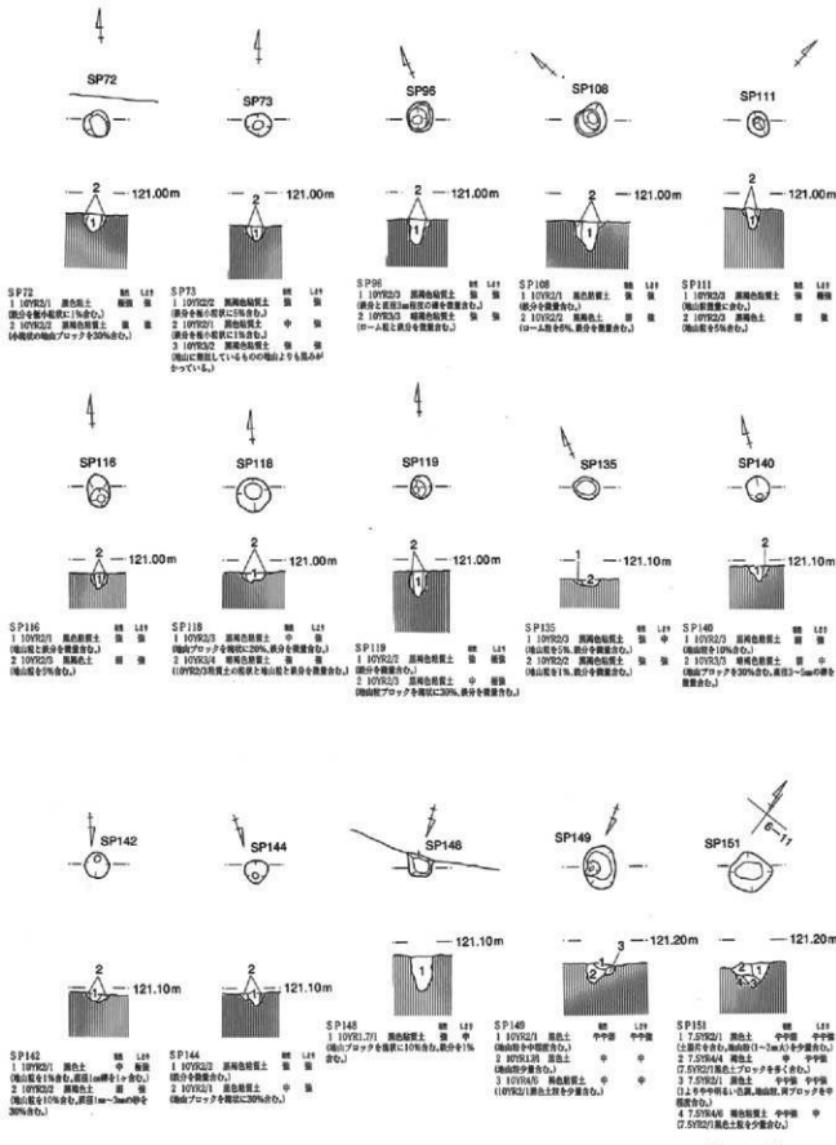
河川跡として登録した遺構は、A、B各区で検出されたSGである。平成11年度調査区のSD24と登録した溝跡と同一の遺構と考えられる(第4図)。また、今年度調査区、B区で検出されたSD235、C区のSD95もこれらSGと一連の遺構と考えられる。基本的にはSD24からSD235、SD95の北東から南西に向かう小河川の流れがあり、その河川の流れの氾濫による広がりがA、B区で検出されたSGになるものと考えられる。

SD24は北東から南西に伸びる溝跡で、北東部は溝幅も狭く確認面からの深さも10~15cm前後あるが、南西に向かって傾斜しており、幅はそれに伴い広がり、確認面からの深さは2~5cmと浅くなる。また平面形も不定形になる様相を呈する。覆土は砂礫を含んだ黒褐色土を基調とし、遺物が多く出土している。溝幅も一定でなく、覆土の状況から自然の小河川であると考えられた。また土器片などの遺物や焼けた痕跡のある河原石が出土しており、日常的に廃棄などの行為が行われた様相がみられた。

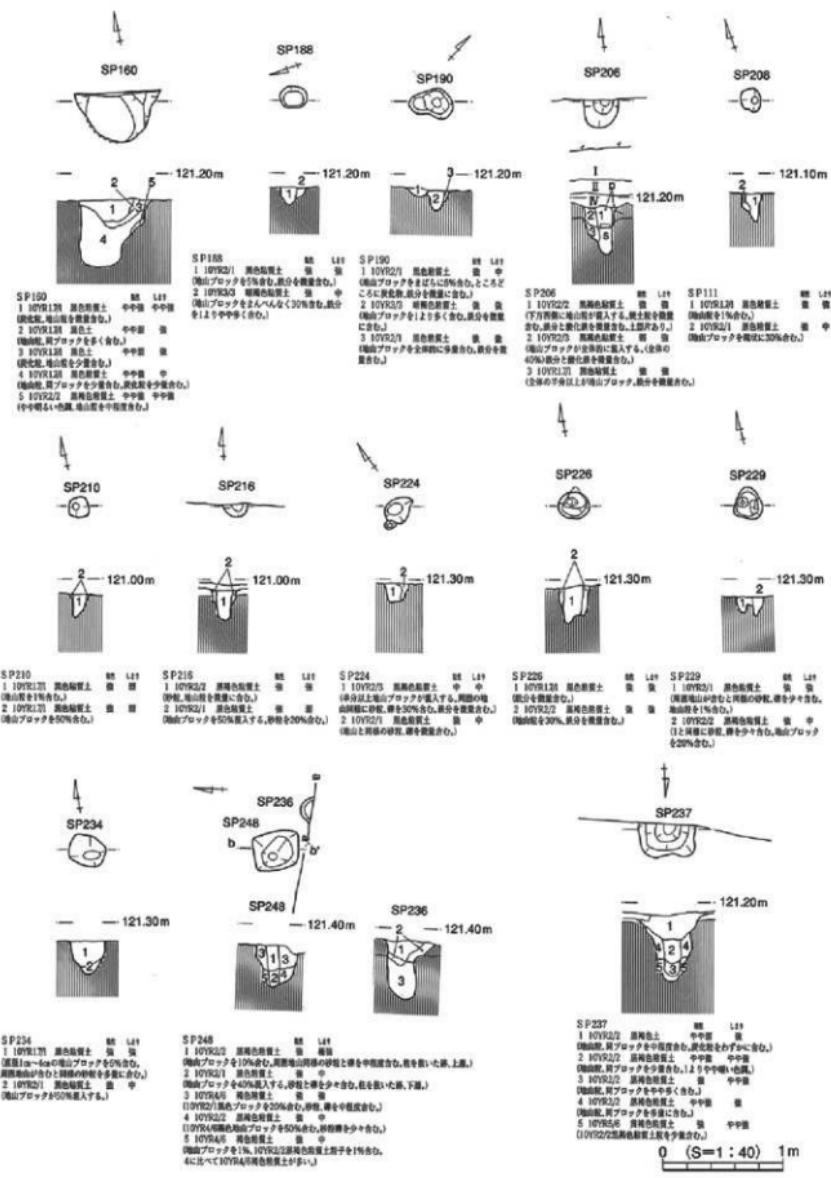
今回の調査においてA、B区で検出されたSGは遺構検出の際に比較的多くの遺物と共に、砂、礫を含んだ黒褐色土の広がりが^{16~19-11~12}グリッド、^{14~15-8~9}グリッドにわたって確認された。いずれも平面形は不定形で検出面からの深さは浅く、底面も凹凸があるため、人為的に構築された遺構ではないと判断した。

覆土は基本的に2層からなり、砂、砂礫を含んだ黒褐色土を基調とする。

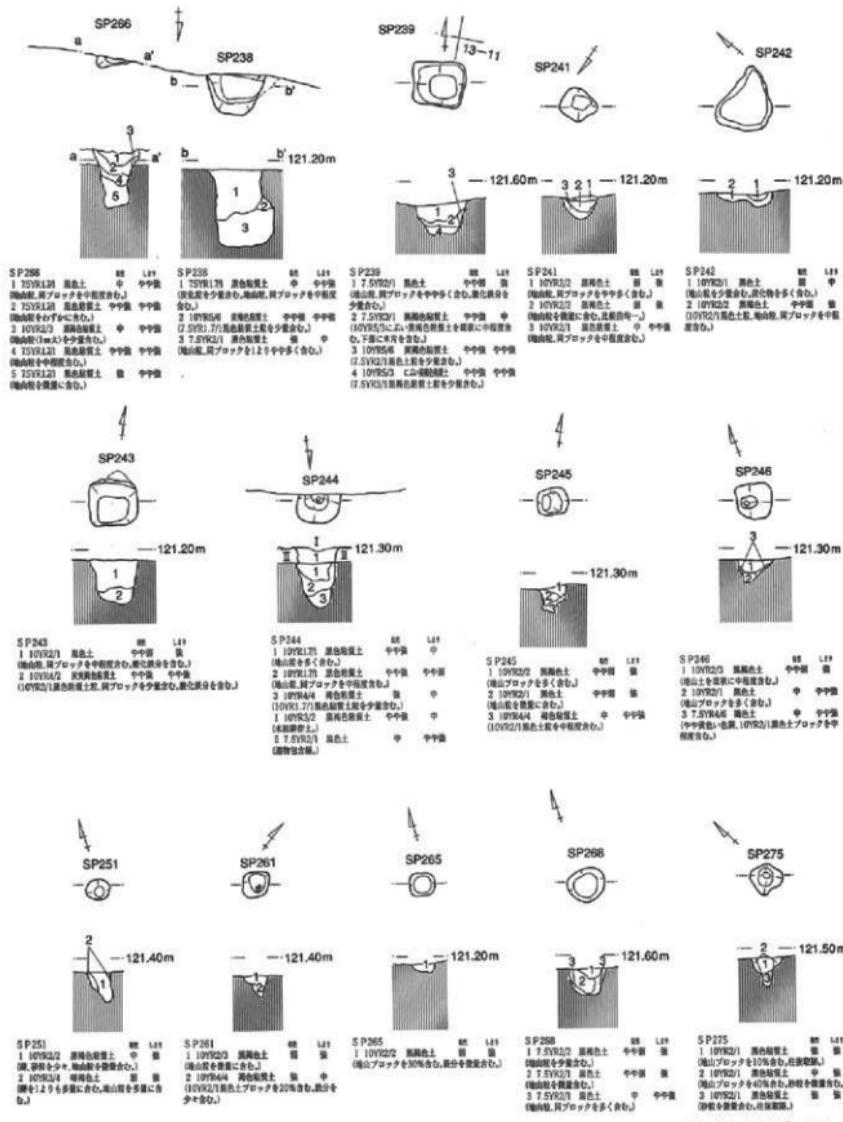
覆土上層より土師器、須恵器片が多数出土しており、今回の調査での出土破片総数約20%を占める。A区よりもB区からの出土量が多い。



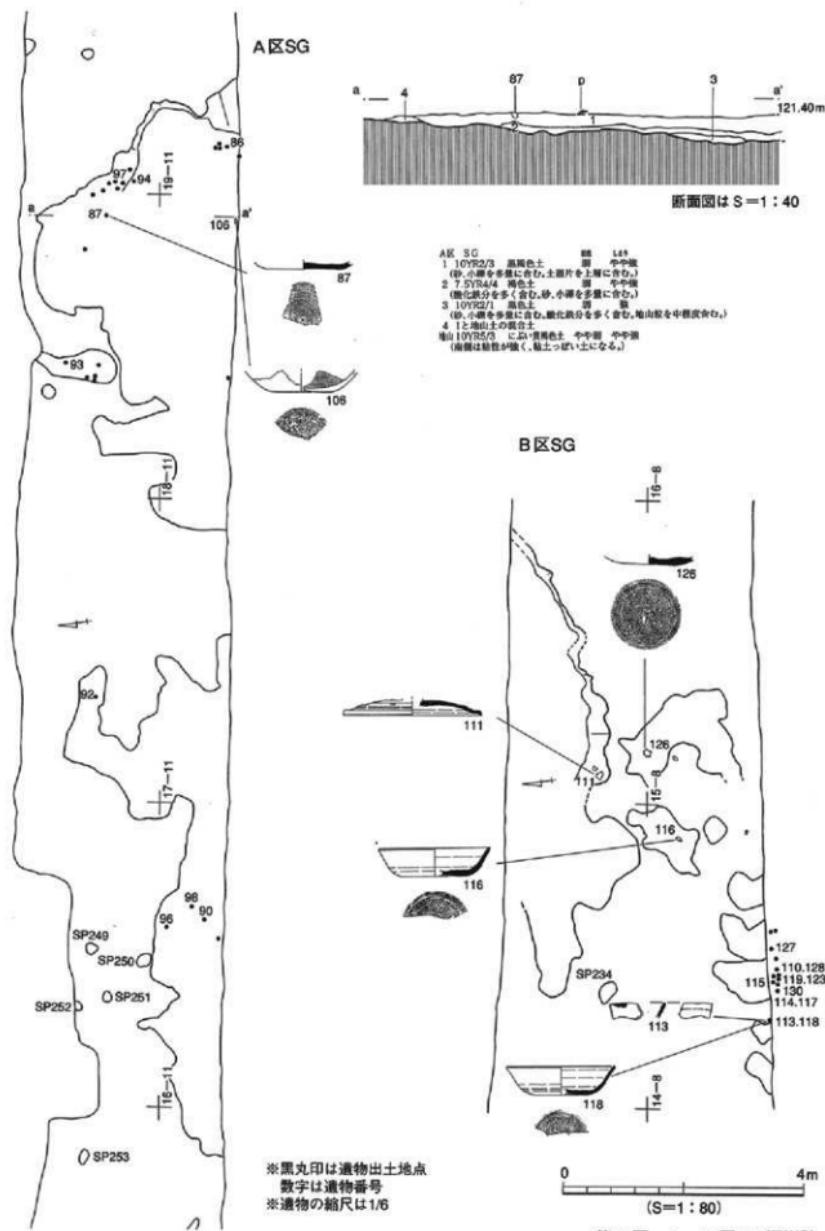
第15図 SP72・73他柱穴、ピット



第16図 SP160・188他柱穴、ピット



第17図 SP238・266柱穴、ピット



第18図 A・B区 SG河川跡

V 出土した遺物

今回の調査で出土した遺物は整理箱にして約6箱である。種別的には土器を中心に、石製品、石器、布製品がある。これらは土坑や河川跡を主として、遺構確認のための面整理中に出土した遺物などが多い。土器は奈良～平安時代に帰属する土師器や須恵器などが中心である。石製品は砥石、石器は凹石である。以下、種別ごとに概述し、遺構の出土土器について列記する。

1 土器

須恵器 出土土器破片総数の23%を占める。器種は蓋・坏・高台付坏・壺・甕などがある。蓋は破片が多く全形を知り得るものはないが、天井部の形態から、天井部が平坦で回転ヘラケズリ調整が施されるものと、緩い丸みをもつものの2つに大別される。坏では器形が底部から直線的に開く形態と、やや丸みをもって立ち上がる形態のものが認められ、口縁端部の形態によりさらに細分化される。底部切り離しについては回転ヘラ切りと回転糸切りが混在するが、回転ヘラ切りが主体を占める。回転ヘラ切りのものは切り離し後ナデによる調整がなされており、平滑に仕上げられている。高台付坏は底部切り離しが回転ヘラ切りと回転糸切り両者が認められ、ナデなどの調整により切り離しが不明なものもある。壺は量的には僅少だが短頸壺と長頸壺の2種類が認められる。須恵器甕は大型の甕で、ほとんどが体部片で体部外面に平行タタキ、格子目状タタキ、内面に同心円状アテ、無文アテ、平行アテが施されている。

土師器 出土破片総数の77%を占める。非ロクロ成形とロクロ成形に大別することができるが、非ロクロのものが大半である。しかし、そのほとんどは破片であり、全体形を知り得るものは少なく、摩滅等により調整も不明瞭であった。

器種は坏・鉢・甕がある。坏は底部が丸底風平底や平底でいわゆる有段丸底の坏は認められない。底部外面は、手持ヘラケズリされているものが大半をしめる。体部外面は口縁部が横ナデ、体部が手持ヘラケズリ、内面は口縁部が横方向、体部が縦及び放射状にヘラミガキの後、黒色処理が施されるものが大半である。また少量であるが、黒色処理の施されていない坏も認められる。またロクロ調整の坏片が1点認められた。鉢も坏同様、体部外面は手持ヘラケズリ、内面は口縁部が横方向、体部は縦方向にミガキ、黒色処理されている。

甕は小型と大型の2種類が認められる。両者とも非ロクロ成形である。底部は平底で木葉痕が確認される。調整は体部外面が縦方向、内面は横方向の刷毛目が施される。

S K 177出土遺物（第19・20図）須恵器では蓋・坏・高台付坏・甕、土師器では坏・甕が出土している。出土破片総数の構成比は須恵器が18.8%、土師器が81.2%である。須恵器坏では底部切り離しが回転ヘラ切りと回転糸切りのものが混在し、回転ヘラ切りが大半である。回転糸切り後底部に回転ヘラケズリ調整を施している土器（19-9）も認められる。高台付坏では小型のもの（19-15, 16）と大型のもの（19-17, 18）が認められる。

土師器は全て非クロ口成形で、壺では体部外面が手持ヘラケズリされ、内面に横ミガキ、黒色処理が施されたもの（20-25）と黒色処理が施されない壺の口縁部片（19-27, 28）が出土する。壺は刷毛目が施されるものである。

S K 186出土遺物（第21図・22図49～55）須恵器では壺・高台付壺・壺・壺、土師器では壺・壺が出土している。出土破片総数の構成比は須恵器が14.7%、土師器85.3%である。須恵器壺では底部から直線的に開くタイプの器形が見られ（21-33～36）、底部切り離しでは回転ヘラ切りと回転糸切りが混在し、回転ヘラ切りが多い。また、口縁部にススの付着が見られる灯明用に使用されたと考えられる土器片（21-43）も出土している。壺（21-45）は口頭部を欠損するが長頸壺になると考えられる。

土師器壺では比較的大型で内外面に刷毛目が施されるもの（22-50, 51, 53）と、小型の壺（22-52, 54, 55）が認められる。

S K 191出土遺物（第22図56～63・第23図64～73）須恵器では蓋・壺・高台付壺・壺、土師器では壺・壺が出土している。出土破片総数の構成比は須恵器が17.1%、土師器が82.9%である。須恵器蓋はつまみ部中央がやや突出する形態のもの（22-56）が出土している。壺では全形を知り得るものは出土していないが、底部切り離しは回転ヘラ切りと回転糸切りが混在し、後者が若干多い。

土師器壺は体部外面が手持ヘラケズリ調整され、内面に横方向のミガキ、黒色処理が施されるもの（23-67～69）で、体部に段は認められず、平底になるものと判断される。壺では平底で木葉痕のあるもの（23-70, 71）が出土している。

A区 S G 河川跡出土遺物（第24図86～94・第25図）須恵器では蓋・壺・高台付壺・壺、土師器では壺・鉢・壺が出土している。須恵器蓋はつまみ部中央が若干突出する形態のもの（24-86）で、天井部が回転ヘラケズリ調整される。壺では底部が回転ヘラケズリ調整されるもの（24-87）や底部が手持ちヘラケズリ調整されるもの（24-91）が出土している。高台付壺は、比較的口径が大きく、器高が低い形態である（24-93）。

土師器壺は非クロ口成形で体部外面が口縁部はヨコナデ、体部が手持ヘラケズリ、内面が口縁部付近は横方向、体部は縱方向及び斜めにミガキ、黒色処理されるものが大半で底部も平底になるものと考えられる。25-102は土師器壺の口縁部であるがクロ口成形である。25-103、104は鉢の口縁部と考えられる。

B区 S G 河川跡出土遺物（第26～27図・28図143～150）本遺跡で最も遺物が多く出土した遺構である。須恵器では蓋・壺・高台付壺・壺・壺・土師器では壺・鉢・壺が出土している。

須恵器蓋ではつまみ部中央が突出し宝珠形となる形態のもの（26-112）が出土しており、器厚などから大型のものと考えられる。壺では底部から直線的に開く形態のもの（26-115, 117）とやや丸みをもって立ち上がる形態（26-118, 119）に大別される。底部の切り離しは回転ヘラ切りが大半である。中には墨書（十カ）があるもの（26-128）や墨痕が付着するものの（26-122）が認められる。壺では小型のもの（27-135）と比較的大型のもの（27-136）が

ある。

土師器坏では底部が手持ヘラケズリされるもの(28—143)が出土している。鉢は口縁部付近が横ナデ調整、体部外面は縦に手持ヘラケズリ調整され、内面は口縁部は横方向、体部は縦方向にミガキ、黒色処理されるもの(28—144, 145)である。土師器壺では小型の外面体部に刷毛目が施され、内面はナデ調整のもの(28—146, 147)が認められる。

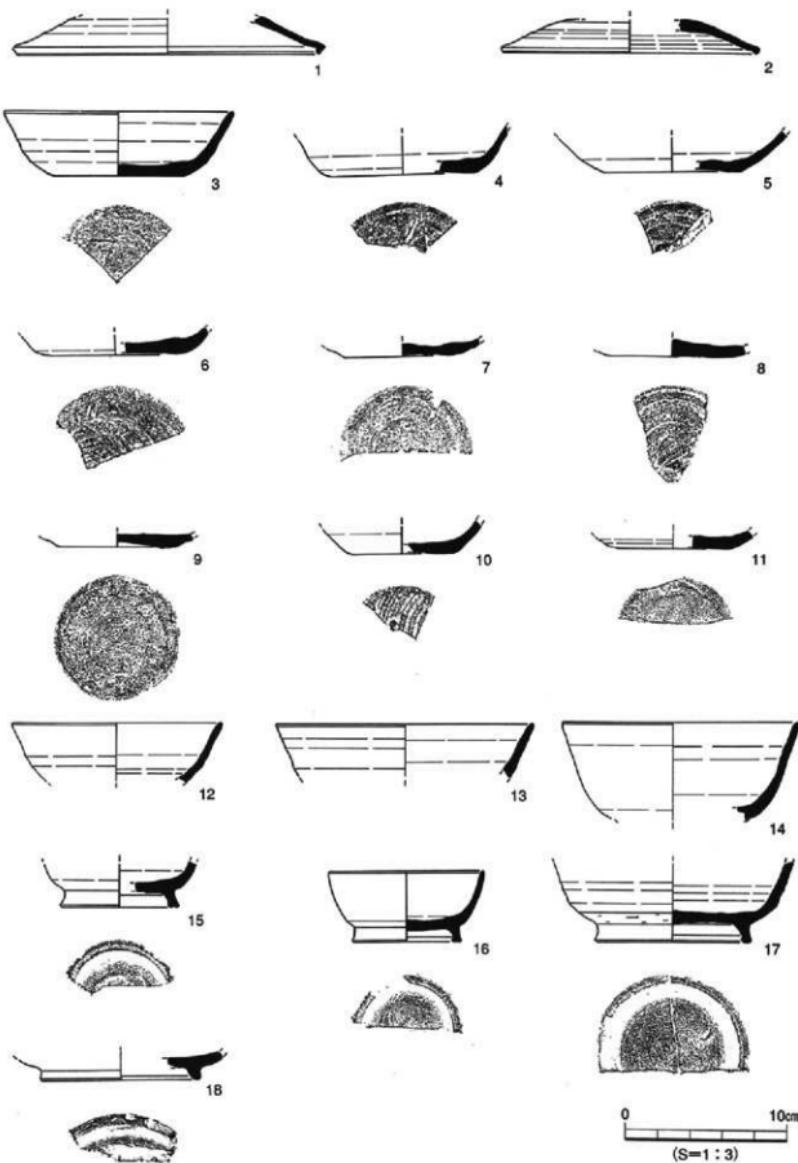
その他の遺構出土遺物(第23図72~77・第24図78~85)：土坑以外の遺構から出土した遺物はあまり多くなく、実測点数も14点にとどまる。23—73は須恵器双耳坏で、耳部は欠損するが体部上半に耳部が付くものである。24—82は内黒土師器の平底の坏で体部外面も横及び斜め方向にミガキが施されている。

グリッド出土遺物(第28図151~156・29図・30図169~172)：本遺跡では遺構検出時に包含層から遺物が比較的多く出土した。これらの遺物についてはグリッドごとに取上げを行っている。

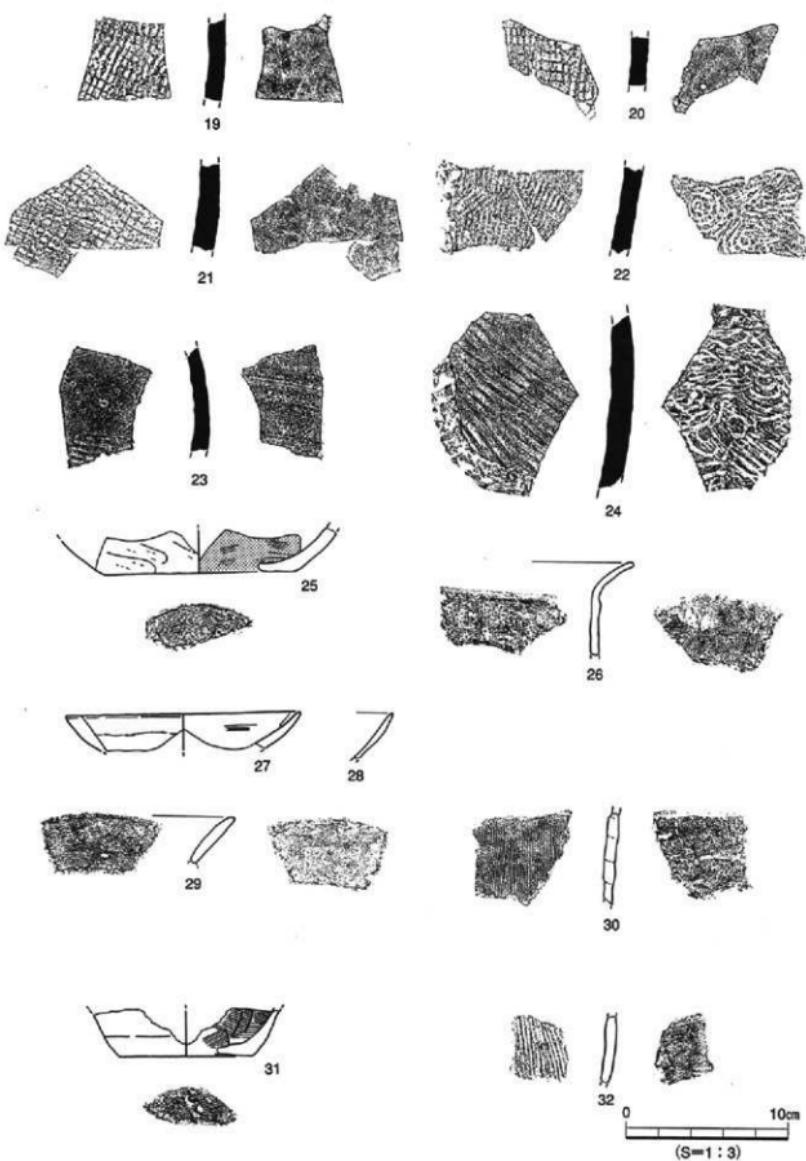
須恵器では坏・高台付坏・壺、土師器坏・鉢・壺が出土している。29—160は須恵器壺の口縁部で、底部には29—159や161が付くものと考えられる。本遺跡では一定量散見される資料である。土師器では口縁部にススが付着したもの(30—169)や漆が付着する破片(30—171)が認められた。

2 石製品・石器・布製品

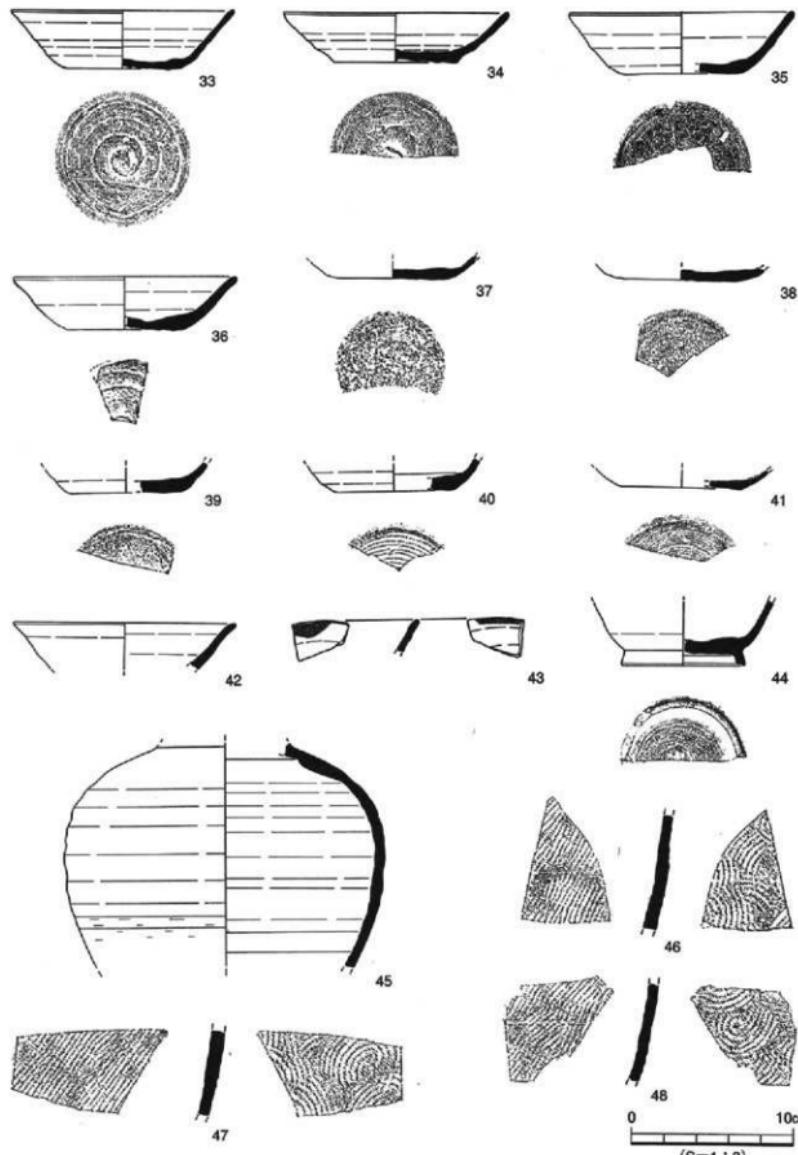
24—84は凝灰岩質の石材で、研ぎ面が一面認められたため砥石とした。凹石(30—183)は表土からの出土である。24—85はS P 166より出土した布状製品である。破片のため用途は不明であるが漆液が付着している。時期は同一遺構の覆土内から、須恵器片が出土していることから、奈良～平安時代に帰属すると考えられる。



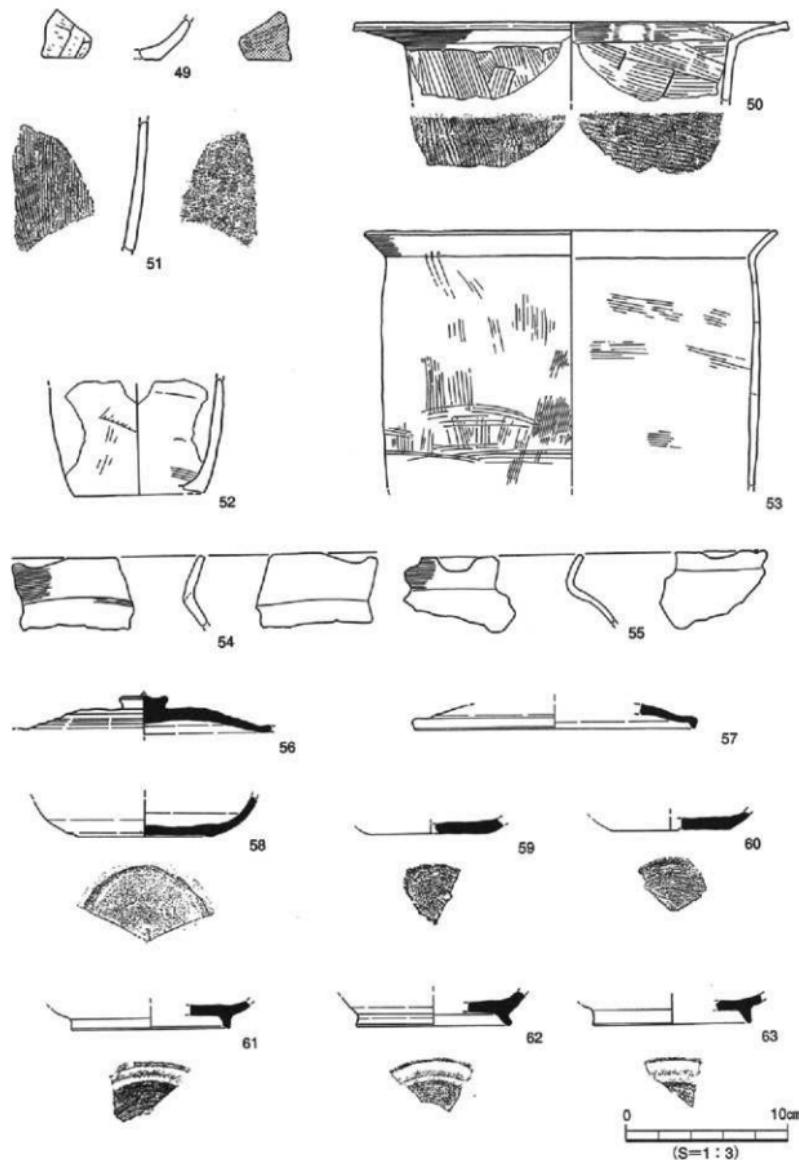
第19図 SK177出土遺物



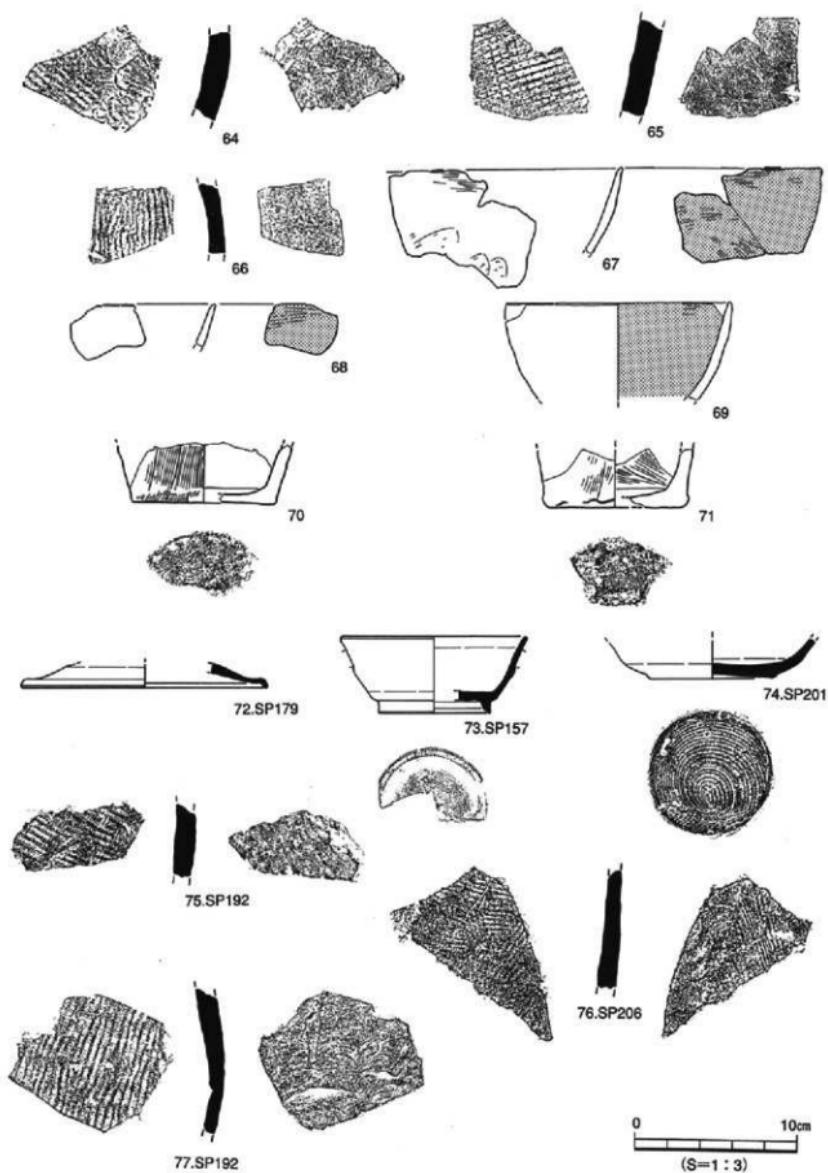
第20図 SK177出土遺物



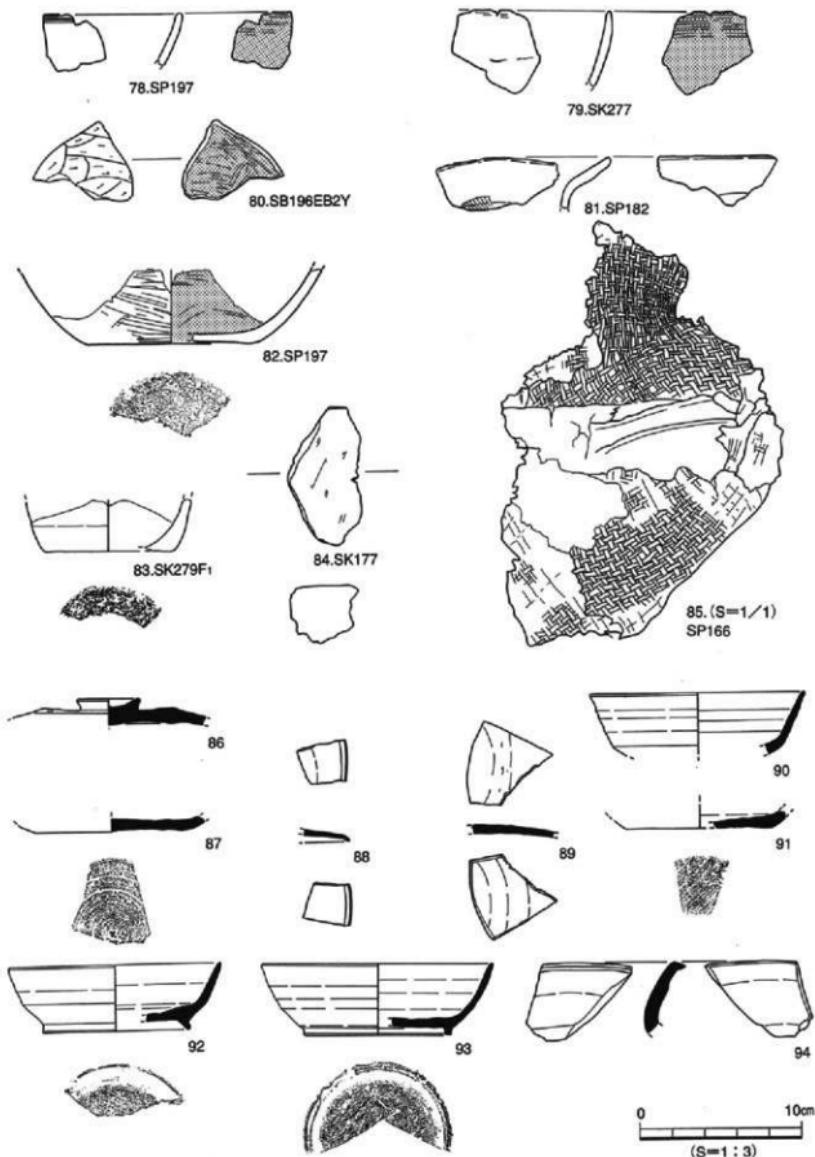
第21図 SK186出土遺物



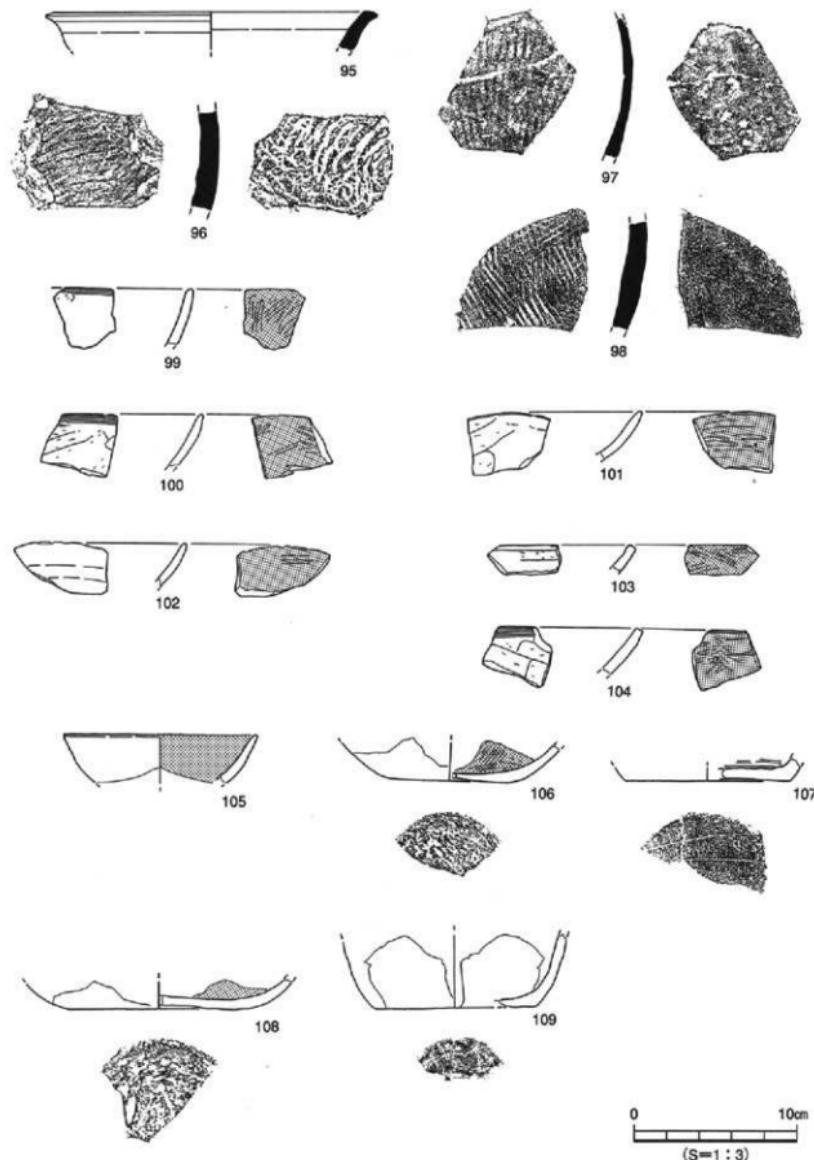
第22図 SK186・191出土遺物



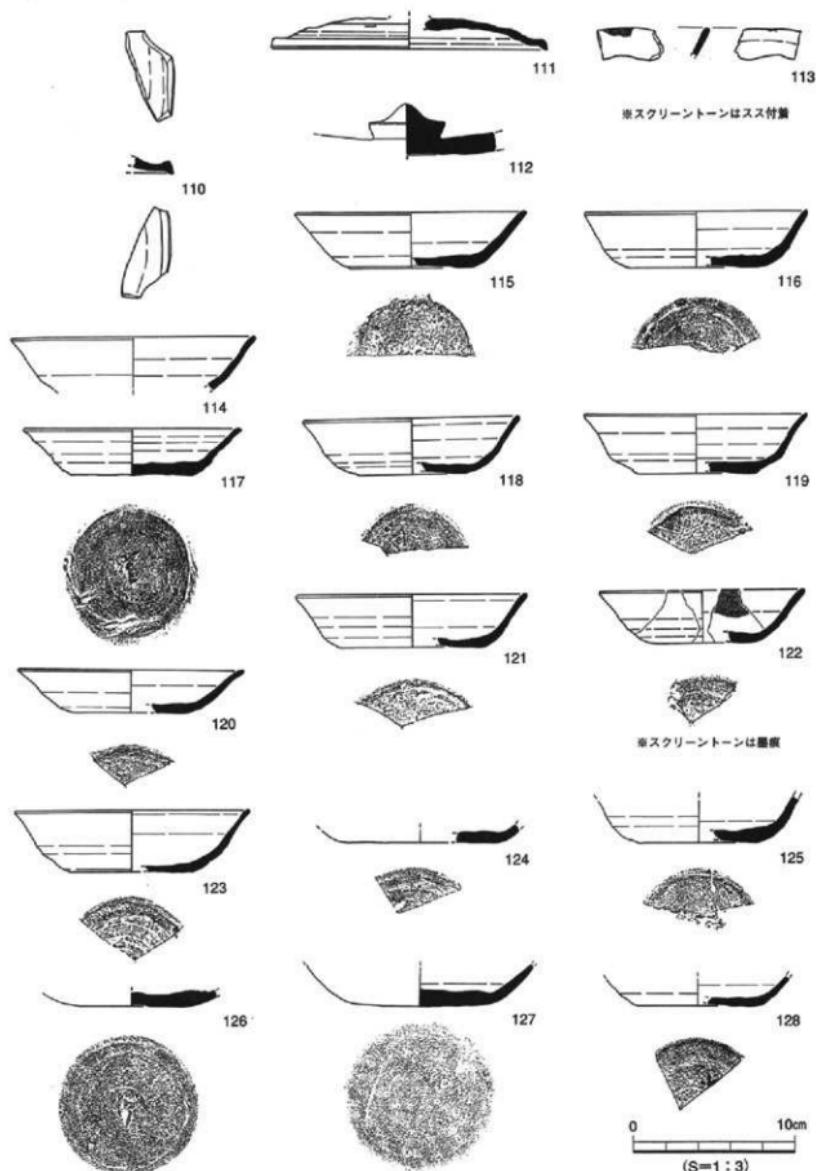
第23図 SK191・遺構出土遺物



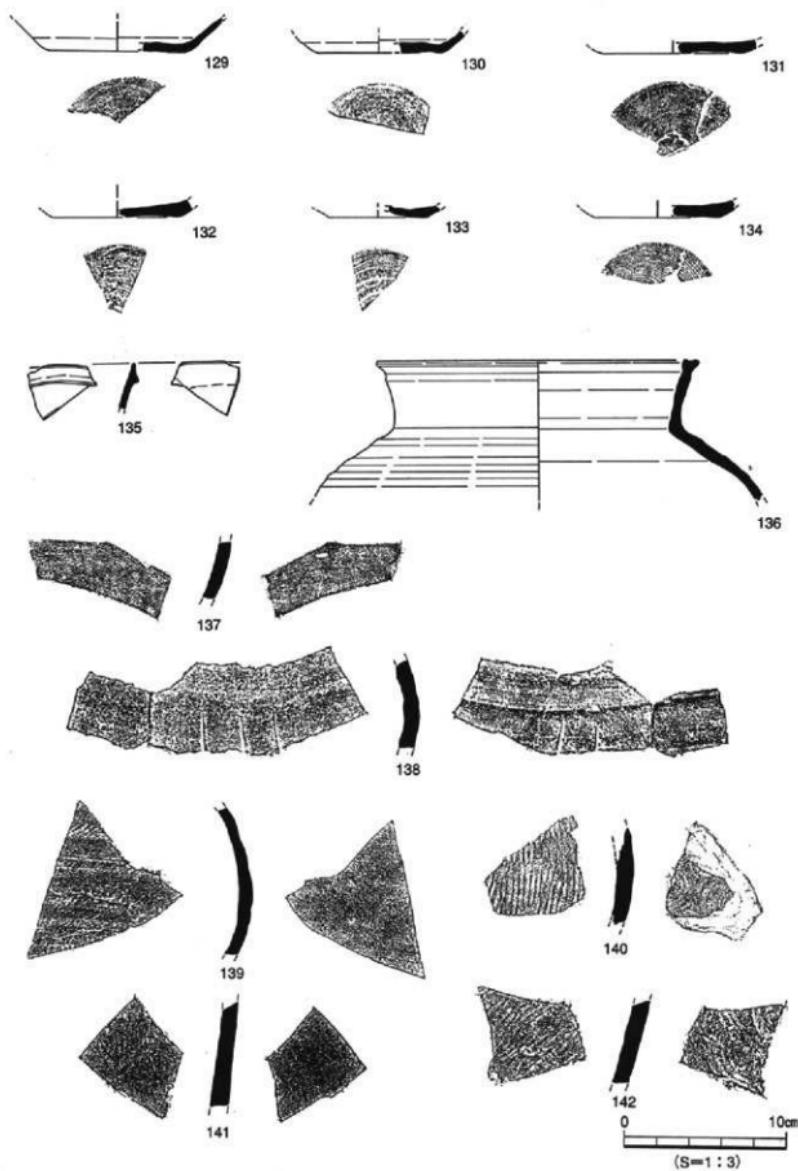
第24図 遺構・A区SG河川跡出土遺物



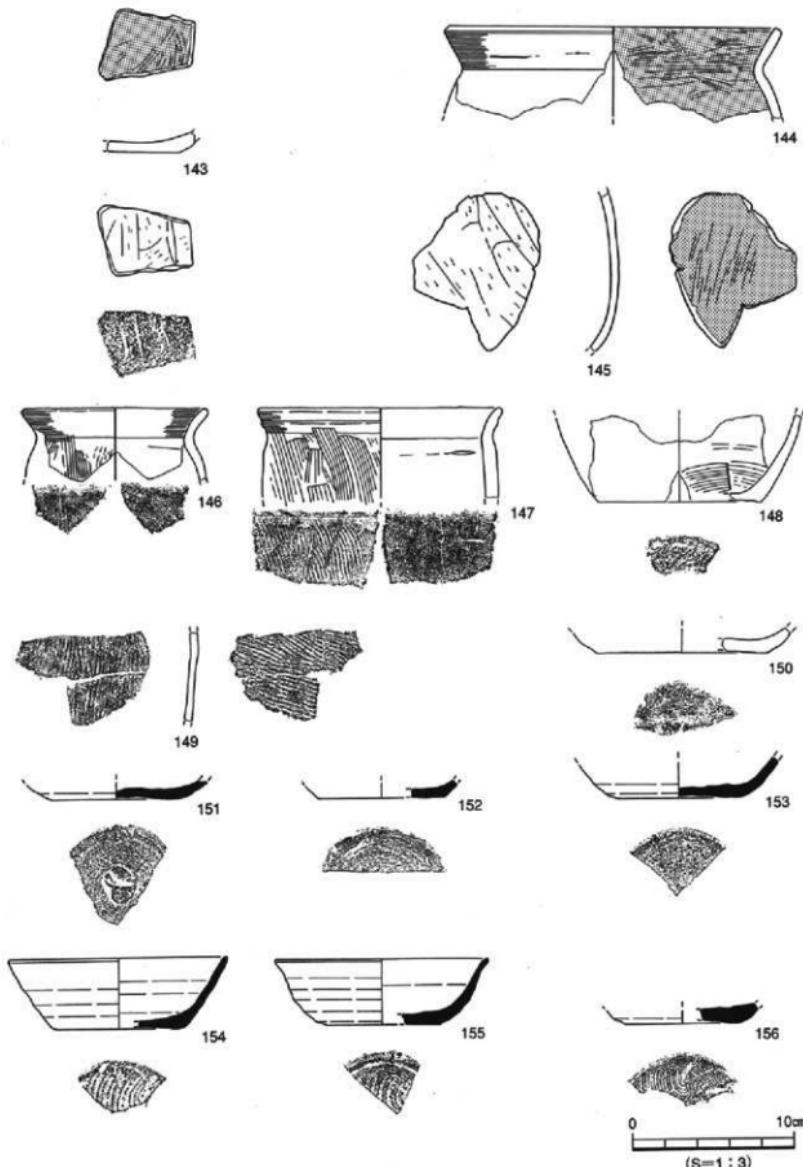
第25図 A区SG河川跡出土遺物



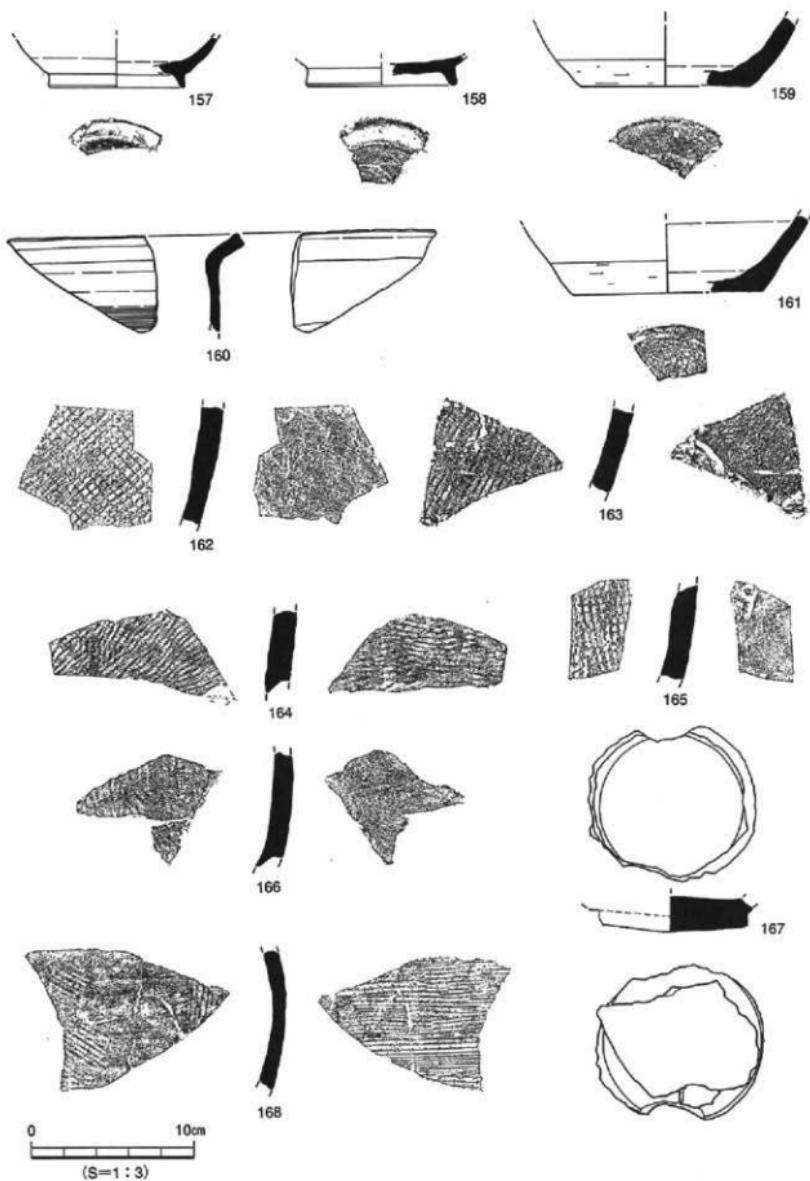
第26図 B区SG河川跡出土遺物



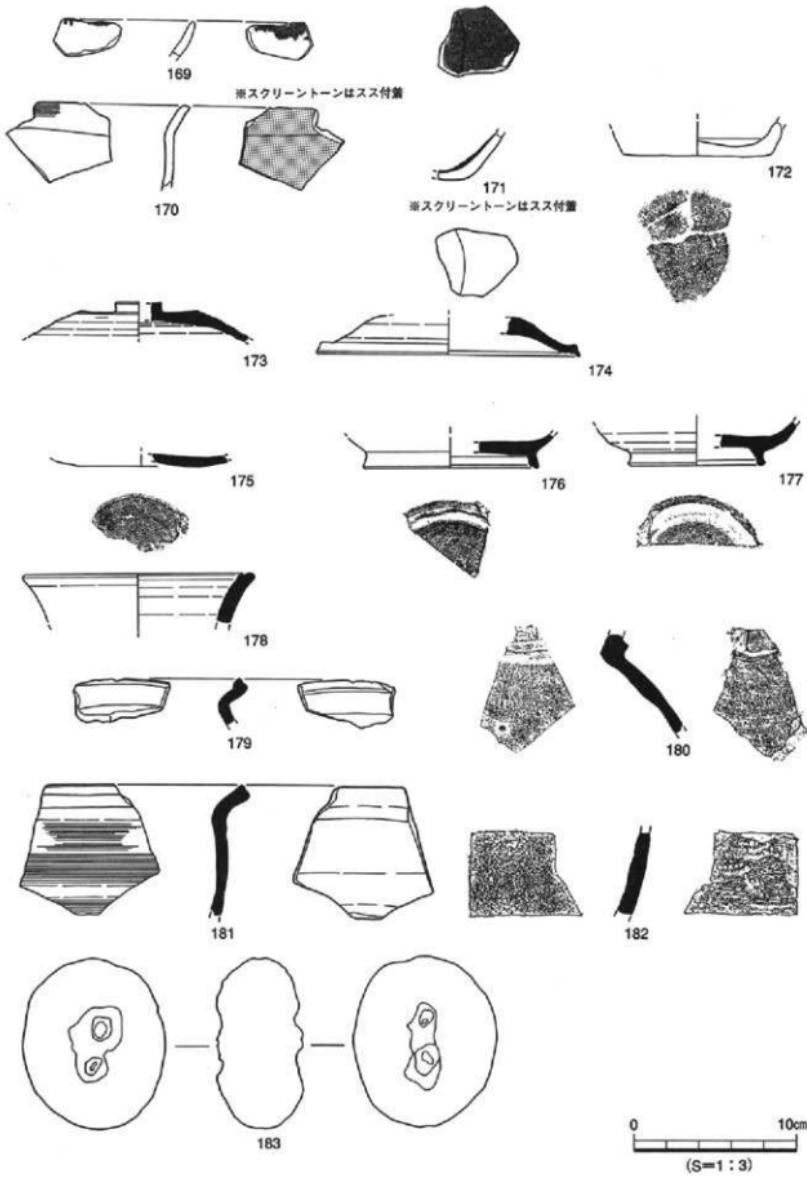
第27図 B区SG河川跡出土遺物



第28図 B区SG河川跡・グリッド出土遺物



第29図 グリッド出土遺物



第30図 グリッド・表土出土遺物

出土遺物観察表(1)

| 序号 | 遺物 | 種 | 別 | 器 形 | 出 土 地 点 | 計測値()は推定値 | 成 形・調 整 | | | 底部切離し | 備 考 |
|----|-------|------|---|-------------|---------|------------|----------|---------------------|---------------------|--------------------|-----------|
| | | | | | | | 横幅 | 底径 | 高さ | | |
| 1 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | (163) — | (23) | ロクロ | ロクロ | | |
| 2 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F2 | (154) — | — | ロクロ、回転ヘラカズリ | ロクロ | | |
| 3 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F2 | (140) (80) | 38 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 4 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F2 | — (90) | (23) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 5 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F2 | — (84) | (21) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 6 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — (80) | (12) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 7 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — (72) | (6) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 8 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — (74) | (2) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 9 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F2 | — (70) | (5) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラカズリ 回転ヘラカズリ | |
| 10 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F2 | — (63) | (16.5) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 11 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — (68) | (7) | ロクロ | ロクロ | | |
| 12 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | (128) | (36.5) | ロクロ | ロクロ | | |
| 13 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F6, F | (156) | — (33) | ロクロ | ロクロ | | |
| 14 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | (154) | — (59.5) | ロクロ | ロクロ | | |
| 15 | 須恵器 | 高台付壺 | A | SK177 | F2 | — (71) | (26.5) | ロクロ | ロクロ | 不明 | |
| 16 | 須恵器 | 高台付壺 | A | SK177 | | (94) (66) | 43 | ロクロ | ロクロ | ナデによる調整 のため不明 | |
| 17 | 須恵器 | 高台付壺 | A | SK177 | F2 | — (92) | (48) | ロクロ、回転ヘラカズリ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 18 | 須恵器 | 高台付壺 | A | SK177 | | — (96) | (13) | ロクロ | ロクロ | | |
| 19 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | F2 | — | — | 格子目タタキ | 同心円アテ | | |
| 20 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 格子目タタキ | 不明 | ヘラ痕「×」 | |
| 21 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 格子目タタキ | 同心円アテ | | |
| 22 | 須恵器 | 壺 | A | SK177-9-12G | | — | — | 平行タタキ | 同心円アテ | | |
| 23 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 平行タタキ | ロクロ | | |
| 24 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 平行タタキ | 同心円アテ | | |
| 25 | 内墨土師器 | 壺 | A | SK177 | | — (116) | (23.5) | 手持部ヘラカズリ | ミガキ、黒色処理 | 手持部ヘラカズリ | |
| 26 | 土師器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 口縁部:ヨコナデ 体部:横刷毛目 | 口縁部:ヨコナデ 体部:横刷毛目 | | |
| 27 | 土師器 | 壺 | A | SK177 | | (142) | — (22) | ヨコナデ | ミガキ | 墨色処理、非ロクロ | |
| 28 | 土師器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 墨色処理、非ロクロ | |
| 29 | 土師器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | ヨコナデ | ヨコナデ | | |
| 30 | 土師器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 縦刷毛目 | 横刷毛目 | | |
| 31 | 土師器 | 壺 | A | SK177 | | — (80) | (28) | 不明 | 横刷毛目 | 不明 | |
| 32 | 須恵器 | 壺 | A | SK177 | | — | — | 縦刷毛目 | 摩滅により不明 | | |
| 33 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | (138) | 88 | 35.5 | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 34 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | (136) | (74) | 30.5 | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 35 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | (136) | (72) | 37.5 | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 36 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | | (72) | 32 | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 37 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | — (66) | (10) | ロクロ | ロクロ | 摩滅により不明 | |
| 38 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | — (76) | (7) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 39 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | — (70) | (15.5) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 40 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | — (70) | (17) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 41 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | — (74) | (11) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 42 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | (134) | — (28) | | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 43 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | 検出面上部 | — | — | ロクロ | ロクロ | スス付着 | |
| 44 | 須恵器 | 高台付壺 | A | SK186 | | — (75) | (38) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 45 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | | | ロクロ | ロクロ | 側面着大付197 | |
| 46 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | 検出面上部 | — | — | 平行タタキ | 同心円アテ | | |
| 47 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | | — | — | 平行タタキ | 青海波アテ | | |
| 48 | 須恵器 | 壺 | A | SK186 | 検出面上部 | — | — | 平行タタキ | 同心円アテ | | |
| 49 | 内墨土師器 | 壺 | A | SK186 | | — | — | 手持部:ヨコナデ | ミガキ、黒色処理 | 不明 | 墨色処理、非ロクロ |
| 50 | 土師器 | 壺 | A | SK186 | | (264) | — | 口縁部:ヨコナデ 体部:横刷毛目 | 横刷毛目 | | 非ロクロ |
| 51 | 土師器 | 壺 | A | SK186 | | — | — | 横刷毛目 | 横刷毛目 | | 非ロクロ |
| 52 | 土師器 | 壺 | A | SK186 | | — (78) | (68) | 横刷毛目 | 横刷毛目 | 摩滅により不明 | 非ロクロ |
| 53 | 土師器 | 壺 | A | SK186 | | (252) | — (165) | 縦刷毛目:横刷毛目 | 横刷毛目 | | |
| 54 | 土師器 | 壺 | A | SK186 | 検出面上部 | — | — | ヨコナデ | ヨコナデ | | |
| 55 | 土師器 | 壺 | A | SK186 | 検出面上部 | — | — | 口縁部横ナデ | 摩滅により不明 | | 非ロクロ |
| 56 | 須恵器 | 壺 | A | SK191 | | — | — | ロクロ | ロクロ | ナダれひびき | |
| 57 | 須恵器 | 壺 | A | SK191 | | — | (14.5) | ロクロ | ロクロ | | |
| 58 | 須恵器 | 壺 | A | SK191 | | — (80) | (22.5) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | |
| 59 | 須恵器 | 壺 | A | SK191 | | — (74) | (4) | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | |
| 60 | 須恵器 | 壺 | A | SK191 | | — (72) | (9) | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | |
| 61 | 須恵器 | 高台付壺 | A | SK191 | | — (95) | (14) | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | |
| 62 | 須恵器 | 高台付壺 | A | SK191 | | — (93) | (18.5) | ロクロ | ロクロ | 不明 | |

出土遺物観察表(2)

| 排列 | 遺物 | 種 | 器 形 | 出 土 地 点 | | | 計測値()は推定値 | 成 形・調 整 | | 底部切離し | 備 考 | | |
|----|-----|-------|------|---------|--------------|-------|------------|---------|--------------------|-----------------------|------------|----------|-------|
| | | | | 周長 | 裏側グリッド | 層 序 | 口 径 | 底 厚 | 様 式 | 高 | | | |
| 22 | 63 | 須 恵 器 | 高台付环 | A | SK191 | | — | (96) | (13) | ロクロ | ロクロ | 不明 | |
| | 64 | 須 恵 器 | 壺 | A | SK191 | | — | — | — | 平行タタキ | 同心円アテ | | |
| | 65 | 須 恵 器 | 壺 | A | SK191 | | — | — | — | 柄子目タタキ | 無文アテ | | |
| | 66 | 須 恵 器 | 壺 | A | SK191 | | — | — | — | 平行タタキ | 無文アテ | | |
| | 67 | 内里土師器 | 壺 | A | SK191, SP201 | | — | — | — | 口縁部:ミガキ 体部:手神ハラツリ | ミガキ、黒色処理 | | |
| | 68 | 内里土師器 | 壺 | A | SK191 | | — | — | — | 口縁部:コナデ | ミガキ、黒色処理 | | |
| | 69 | 内里土師器 | 壺 | A | SK191 | (136) | — | (59) | — | — | ミガキ、黒色処理 | | |
| 23 | 70 | 土 師 器 | 壺 | A | SK191 | | — | (86) | — | 瓶頸毛目 | 瓶頸より不明 | 木葉瓶 | |
| | 71 | 土 師 器 | 壺 | A | SK191 | | — | (81) | (36) | 瓶頸毛目 | 瓶頸毛目 | 木葉瓶 | |
| | 72 | 須 恵 器 | 壺 | A | SP179 | (132) | — | (4.5) | — | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |
| | 73 | 須 恵 器 | 双耳环 | A | SD157 | (114) | (68) | 47 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | 耳部は欠損 | |
| | 74 | 須 恵 器 | 壺 | A | SP201 | — | 74 | (22.5) | ロクロ | ロクロ | 印軸糸切り | | |
| | 75 | 須 恵 器 | 壺 | A | SP192 | — | — | — | — | 平行タタキ | 同心円アテ | | |
| | 76 | 須 恵 器 | 壺 | A | SP206 | — | — | — | 平行タタキ | 平行アテ | 平行アテ+同心円アテ | | |
| | 77 | 須 恵 器 | 壺 | A | SP192 | — | — | — | 平行タタキ | 齊衛院アテ | | | |
| | 78 | 内里土師器 | 壺 | A | SP197 | — | — | — | 口縁部:コナデ | ミガキ、黒色処理 | | | |
| | 79 | 内里土師器 | 壺 | A | SK277 | — | — | — | 口縁部:ミガキ | ミガキ、黒色処理 | | | |
| | 80 | 内里土師器 | 壺 | A | SB16 EB3-Y | — | — | — | 手持ヘラケズリ | ミガキ、黒色処理 | 手持ヘラケズリ | | |
| | 81 | 土師器 | 壺 | A | SP182 | — | — | — | 口縁部:コナデ 体部:瓶刷毛目 | ミガキにより不明 | 非ロクロ | | |
| | 82 | 内里土師器 | 壺 | A | SP197 | — | (102) | — | — | 体部:ミガキ | ミガキ、黒色処理 | 手持ヘラケズリ | |
| | 83 | 土師器 | 壺 | A | SK279 | F1 | (77) | — | — | ミガキにより不明 | ミガキ、黒色処理 | 手持ヘラケズリ | |
| | 84 | 砾 石 | | A | SK177 | 85 | 43 | 35 | 計画削は長く粗 | ミガキ | 非ロクロ | | |
| | 85 | 布 | | A | SP166 | 62 | 42 | — | 計画削は長く粗 | ミガキ | 非ロクロ | | |
| 24 | 86 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG | F1 | — | — | — | 印軸ヘラケズリ | ロクロ | 異型により不明 | |
| | 87 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG | F1 | — | (90) | (5) | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り放 | |
| | 88 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG(19-11-12) | F1 | — | — | — | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラケズリ | |
| | 89 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG(18-12) | F1 | — | — | — | ロクロ | ロクロ | | |
| | 90 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG(16-11) | F1 | (132) | — | (38) | ロクロ | ロクロ | | |
| | 91 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG(19-11-12) | F1 | — | (91) | (55) | ロクロ | ロクロ | ヘラケズリ圓盤 | |
| | 92 | 須 恵 器 | 高台付环 | A | SG(17-12) | F1 | (128) | (69) | 40 | ロクロ | ロクロ | 不明 | |
| | 93 | 須 恵 器 | 高台付环 | A | SG | F1 | (142) | 88 | 43.5 | ロクロ | ロクロ | ハラ明後付ノ彫刻 | |
| | 94 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG | F1 | — | — | — | ロクロ | ロクロ | | |
| | 95 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG | F1 | (187) | — | (22.5) | ロクロ | ロクロ | | |
| | 96 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG(16-11) | F1 | — | — | — | 平行タタキ | 齊衛院アテ | | |
| | 97 | 須 恵 器 | 壺 | ? A | SG | F1 | — | — | — | 平行タタキ | 無文アテ | | |
| | 98 | 須 恵 器 | 壺 | A | SG(16-11) | F1 | — | — | — | 平行タタキ | 無文アテ | | |
| | 99 | 内里土師器 | 壺 | A | SG | F1 | — | — | — | 口縁部:コナデ 体部:不明 | ミガキ、黒色処理 | | |
| | 100 | 内里土師器 | 壺 | A | SG(18-11) | F1 | — | — | — | 口縁部:コナデ 体部:手持ヘラケズリ | ミガキ、黒色処理 | | |
| | 101 | 内里土師器 | 壺 | A | SG(19-12) | F1 | — | — | — | 手持ちヘラケズリ | ミガキ、黒色処理 | 非ロクロ | |
| | 102 | 土師器 | 壺 | A | SG | F1 | (118) | — | — | — | ミガキにより不明 | ミガキにより不明 | 非ロクロ |
| | 103 | 内里土師器 | 壺 | A | SG(9-11-12) | F1 | — | — | — | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | ロクロ | |
| | 104 | 内里土師器 | 鉢小鉢 | A | SG(19-12) | F1 | — | — | — | 口縁部:コナデ 体部:手持ヘラケズリ | ミガキ、黒色処理 | | |
| | 105 | 内里土師器 | 鉢小鉢 | A | SG(9-11-12) | F1 | — | — | — | 口縁部:ナデ 体部:手持ヘラケズリ | ミガキ、黒色処理 | 非ロクロ | |
| | 106 | 内里土師器 | 壺 | A | SG | F1上崩 | — | (73) | (21.5) | — | ミガキにより不明 | ミガキ、黒色処理 | 非ロクロ |
| 25 | 107 | 土師器 | 壺 | A | SG(9-11-12) | F1 | (101) | — | — | — | 櫛刷毛目 | 木葉瓶 | 底部木葉瓶 |
| | 108 | 内里土師器 | 壺 | A | SG(19-12) | F1 | — | (109) | (15.5) | — | ミガキにより不明 | ミガキ、黒色処理 | 不明 |
| | 109 | 土師器 | 壺 | A | SG(16-11) | — | (97) | (41) | (31.5) | ロクロ | ミガキ、黒色処理 | 木葉瓶カ | 非ロクロ |
| | 110 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG | F1 | — | — | — | ロクロ | ロクロ | | |
| | 111 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG(14-8) | — | — | — | — | 印軸ヘラケズリ | ロクロ | 異型により不明 | |
| | 112 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG(14-8) | F2 | — | — | — | ロクロ | ロクロ | 不明 | |
| | 113 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG(14-8) | F1 | — | — | — | ロクロ | ロクロ | スス付着 | |
| | 114 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG(14-8) | F1 | (149) | — | (31.5) | ロクロ | ロクロ | | |
| | 115 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG | F1 | (142) | 76 | 34 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |
| | 116 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG | F1 | (134) | (84) | 33 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |
| | 117 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG | F1 | (129) | 74 | 29 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |
| | 118 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG(14-8) | F1 | (130) | (66) | 35 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |
| | 119 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG | F1 | (135) | (72) | 37 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |
| | 120 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG(14-8) | F1 | (136) | (70) | 27 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |
| | 121 | 須 恵 器 | 壺 | B | SG | F1 | (140) | (86) | 32.5 | ロクロ | ロクロ | 印軸ヘラ切り | |

出土遺物観察表(3)

| 辨別 | 遺物 | 種 | 別 | 器 形 | 出 土 地 点 | 計測値()は推定値 | 成 形・ 鋼 素 | | 底部切離し | 備 考 | | | | | | | | | | | |
|----|-----|-------|------|---------------|---------|------------|----------|-------------------|----------------------|----------|-------------------|-------|---|---|---|---|---|--|----|--|--|
| | | | | | | | 底軸 | 遠隔グリッド | 層 | 序 | 日 | 高 | 底 | 高 | 外 | 内 | 面 | | | | |
| 26 | 122 | 須恵器 | 坏 | B SG(14-8) | F2 | (125) (58) | 32 | ロクロ | ロクロ | 不明 | | | | | | | | | 器底 | | |
| | 123 | 須恵器 | 坏 | B SG(14-8) | F1 | (144) | (76) | 37.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | |
| | 124 | 須恵器 | 坏 | B SG(14-8) | | (90) | (7.5) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 125 | 須恵器 | 坏 | B SG+HSL14-4 | | (71) | (26) | ロクロ | ロクロ | 不明 | | | | | | | | | | | |
| | 126 | 須恵器 | 坏 | B SG | F1 | (78) | (6) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 127 | 須恵器 | 坏 | B SG | F1 | (84) | (25) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | 全体的に變形 | | | | | | | | | | |
| | 128 | 須恵器 | 坏 | B SG | F1 | (76) | (16) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 129 | 須恵器 | 坏 | B SG(14-8) | | (84) | (20) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | 全体的に變形 | | | | | | | | | | |
| 27 | 130 | 須恵器 | 坏 | B SG | F1 | (75) | (19.5) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 131 | 須恵器 | 坏 | B 14-8-E | | (85) | (3) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 132 | 須恵器 | 坏 | B 15-9-W | | (78) | (4) | ロクロ | ロクロ | 回転系切り? | | | | | | | | | | | |
| | 133 | 須恵器 | 坏 | B SG(14-8) | | (60) | (4.5) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 134 | 須恵器 | 坏 | B S03+HSL15-4 | | (76) | (5) | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | 全体的に變形 | | | | | | | | | | |
| | 135 | 須恵器 | 壺 | B 14-8G | | - | - | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | | |
| | 136 | 須恵器 | 壺 | B SG | F1 | (179) | (83) | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | | |
| | 137 | 須恵器 | 壺 | B SG | F1 | - | - | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | | |
| 28 | 138 | 須恵器 | 壺 | B SG | F1 | - | - | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | | |
| | 139 | 須恵器 | 壺 | B SG | F1 | - | - | 平行タクキ | ロクロ | | | | | | | | | | | | |
| | 140 | 須恵器 | 壺 | B SG(14-9-E) | | - | - | 平行タクキ | 同心円アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 141 | 須恵器 | 壺 | B 15-9-E | | - | - | 不明 | 不明 | | | | | | | | | | | | |
| | 142 | 須恵器 | 壺 | B 15-9-E | | - | - | 平行タクキ | 背面或アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 143 | 土師器 | 坏 | B SG | F1 | - | - | 手持タクキ | ミガキ、黒色処理 | | | | | | | | | | | | |
| | 144 | 内墨土師器 | 壺? | B SG | F1 | (198) | - | (53.5) | 口縁部:ヨコナデ 体部:手持タクキ | ミガキ、黒色処理 | ロクロ | | | | | | | | | | |
| | 145 | 内墨土師器 | 不明 | B SG(14-8) | F1 | - | - | - | 口縁部:ヨコナデ 体部:手持タクキ | ミガキ、黒色処理 | | | | | | | | | | | |
| 29 | 146 | 土 師 器 | 壺 | B SG | F1 | (108) | - | (42) | 口縁部:ヨコナデ 体部:手持タクキ | ヨコナデ | ヨコナデ | | | | | | | | | | |
| | 147 | 内墨土師器 | 壺 | B SG(14-8) | | (144) | - | (55) | 口縁部:ヨコナデ 体部:縦刷毛目 | ヨコナデ | | | | | | | | | | | |
| | 148 | 土 師 器 | 壺 | B SG(14-8) | F2 | (96) | (52) | 刷毛目? | 横刷毛目 | 不明 | 横刷毛目 | | | | | | | | | | |
| | 149 | 土 師 器 | 壺 | B SG | F1 | - | - | - | 縦刷毛目 | 横刷毛目 | 横刷毛目 | | | | | | | | | | |
| | 150 | 土 師 器 | 壺 | B SG(14-8) | | (106) | (12) | - | - | - | 不明 | 横刷毛目 | | | | | | | | | |
| | 151 | 須恵器 | 坏 | A 10-12G | | (78) | (10) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 152 | 須恵器 | 坏 | A 10-12G | | (77) | (8) | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ切り | | | | | | | | | | | |
| | 153 | 須恵器 | 坏 | A 10-11G | | (72) | (21) | ロクロ | ロクロ | 調整により不明 | | | | | | | | | | | |
| 30 | 154 | 須恵器 | 坏 | A 10-12G | | (132) | (80) | 42.5 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | | | | | | | | | | |
| | 155 | 須恵器 | 坏 | A 10-11-12G | | (130) | (70) | 39 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | | | | | | | | | | |
| | 156 | 須恵器 | 坏 | A 8-11G | | (72) | (8) | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | | | | | | | | | | |
| | 157 | 須恵器 | 高台付坏 | A 10-12G | | (82) | (30) | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 不明 | | | | | | | | | | |
| | 158 | 須恵器 | 高台付坏 | A 8-11G | | (90) | (15) | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | | | | | | | | | | |
| | 159 | 須恵器 | 壺 | A 10-12G | | (104) | (37) | 新削1面削輪付タクキ | ロクロ | ロクロ | 不明 | 火ダスキ痕 | | | | | | | | | |
| | 160 | 須恵器 | 壺 | A 10-11G | | - | - | カキ目 | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | |
| | 161 | 須恵器 | 壺 | A 10-12G | | (116) | (43) | ロクロ | ロクロ | ロクロ | 不明 | | | | | | | | | | |
| 29 | 162 | 須恵器 | 壺 | A 表土 | | - | - | 格子目タクキ | 無文アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 163 | 須恵器 | 壺 | A 10-11G | | - | - | 平行タクキ | 同心円アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 164 | 須恵器 | 壺 | A 8-12G | | - | - | 平行タクキ | 平行アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 165 | 須恵器 | 壺 | A 8-12G | | - | - | 格子目タクキ | 無文アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 166 | 須恵器 | 壺 | A 10-11-12G | | - | - | 平行タクキ | 不明 | | | | | | | | | | | | |
| | 167 | 須恵器 | 壺 | A 10-12G | | - | - | 平行タクキ | 平行アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 168 | 須恵器 | 壺? | A 9-11G | | - | - | - | - | - | 塗作部が省略 | | | | | | | | | | |
| | 169 | 土 師 器 | 坏 | B 14-8G | | - | - | 底底により不明 | ミガキ | | 口縁部スス付 | | | | | | | | | | |
| 30 | 170 | 内墨土師器 | 鋤 | B 8-12G | | - | - | - | 口縁部:ヨコナデ 体部:カキ目 | ミガキ、黒色処理 | 不明 | 表土 | | | | | | | | | |
| | 171 | 内墨土師器 | 壺 | A 10-11G | | - | - | 底底により不明 | ミガキ、黒色処理 | 不明 | 塗付蓋 | | | | | | | | | | |
| | 172 | 土 師 器 | 壺 | A 10-12G | | (86) | (16.5) | 底底により不明 | ミガキ、黒色処理 | 底底により不明 | 底部木葉痕 | | | | | | | | | | |
| | 173 | 須恵器 | 壺 | A 表土 | | - | - | 回転ヘラケズリ | ロクロ | ロクロ | 調整により不明 | | | | | | | | | | |
| | 174 | 須恵器 | 壺 | A 表土 | | (161) | - | - | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | |
| | 175 | 須恵器 | 壺 | B 表土 | | - | (78) | (3) | ロクロ | ロクロ | 回転系切り後 回転ヘラケズリ | | | | | | | | | | |
| | 176 | 須恵器 | 高台付壺 | A 表土 | | - | (106) | (19) | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | | | | | | | | | | |
| | 177 | 須恵器 | 高台付壺 | B 表土 | | - | (81) | (23) | ロクロ+側軸ヘラケズリ | ロクロ | ロクロ | 不明 | | | | | | | | | |
| 30 | 178 | 須恵器 | 彫頭器 | A 檜出箇 | | (141) | - | (30) | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | |
| | 179 | 須恵器 | 壺 | B 表土 | | - | - | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | | |
| | 180 | 須恵器 | 壺 | A 表土 | | - | - | 口縁:ヨコナデ 体部:カキ目 | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | |
| | 181 | 須恵器 | 壺 | B 13-8G | | - | - | ロクロ | ロクロ | | | | | | | | | | | | |
| 30 | 182 | 須恵器 | 壺 | B 表土 | | - | - | 平行タクキ | 格子目アテ | | | | | | | | | | | | |
| | 183 | 西石 | | 表土 | | 104 | 87 | 52 | 圓窓部は長さ、粗厚 | | | | | | | | | | | | |

VI まとめ

今回の調査は、山形市吉原土地区画整理事業地内に計画された株式会社東北ケーズデンキ、(仮)ケーズデンキ山形パワフル館建設事業に係る緊急発掘調査である。発掘調査では建築物の基礎部分、約640m²を調査対象とした。吉原Ⅲ遺跡の平成11年度調査区に南接する。

調査では奈良～平安時代の掘立柱建物跡5棟、土坑7基、杭列跡1条、溝跡9条、柱穴181基、河川跡1条など200基を超える遺構を検出した。出土した遺物は須恵器、土師器、石製品、石器、布製品等整理箱で約6箱である。検出した遺構・遺物は調査区全体に分布するが、南側ほど希薄になり、遺跡の主体は平成11年度調査区寄りの北側にある傾向を示している。以下に遺構と遺物について整理してまとめてかえる。

奈良～平安時代の掘立柱建物跡は5棟検出されたが、いずれも調査区外に伸びているため全体の規模は不明である。柱穴の掘り方が径70～100cm前後のやや大型を呈するSB196やSB232と、掘り方がやや小型で略円形を呈するSB202、203に大別される。これは平成11年度調査時に検出された同地区的掘立柱建物跡と同様の様相を示す。また棟方向は平成11年度調査時は磁北と真北の2方向が見られたが、今回の調査ではSB5を除き真北方向であった。両者の新旧関係は遺構の直接的な切りあいがなく不明であるが、今後出土遺物や周辺遺跡の状況等から検討していくかなければならない。

特記されるものとして、SA282とした杭列跡が検出された事があげられる。平成11年度の調査で確認されていた杭列跡の続きが検出され、今回の調査で南東のコーナー部が検出されたことにより、上述の掘立柱建物跡群を区画する施設である可能性がかなり高くなった。調査区の割約により杭列が区画する範囲は明確でないが、少なくとも南北25m以上の方形状の区画であろうと考えられる。

土坑は主にA区で検出された。出土遺物の大半が土坑及び河川跡からの出土である。これは平成11年度の調査時も同様で、土坑や溝跡への集中的な廃棄状況が考えられる。

一方、出土遺物は供膳具では須恵器蓋・坏・高台付坏、土師器坏が出土している。須恵器坏は底部切り離しが回転ヘラ切りが主であるが回転糸切りのものも一定量認められ、回転糸切り後に底部ヘラケズリを施すものも散見される。土師器坏は無段の丸底風平底や平底の坏で構成され、非クロクロのものが大半である。体部外面は手持ちヘラケズリ、内面はミガキ、黒色処理がなされる。いわゆる「国分寺下層式」の新相の土器群と考えられる。

貯蔵具では須恵器壺・甕が出土している。煮炊具は土師器の甕が出土しており、全て非クロクロで刷毛目が施される。小型甕も少量ながら存在する。

これらの遺物は形態や組成等から、概ね8世紀後葉から9世紀前葉の時期におさまるものと考えられる。

以上のことから吉原Ⅲ遺跡は平成11年度の調査成果及び今年度の調査成果から奈良時代後半～平安時代初頭の集落跡で、今後、周辺の吉原遺跡群の全体像を検討していくことが必要であろう。

報告書抄録

| | | | | | | | |
|--|---|-----------------|--|--|-------------------|---------------------------|-----------------------------|
| ふりがな 書名 副書名 卷次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日 | よしはらさんいせきはっくつちょうさほうこくしょ 吉原Ⅲ遺跡発掘調査報告書 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第11集 植松 熊 山形市教育委員会 〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 TEL 023-641-1212 2001年3月31日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 北緯 遺跡番号 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 吉原Ⅲ | 山形県 山形市 若宮 | 6201 | 平成9年度 登録 | 38度 13分 24秒 | 140度 19分 4秒 | 20000413 ~ 20000525 | 640m ² 店舗建設工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 吉原Ⅲ | 集落跡 | 縄文時代 奈良~平安時代 | 掘立柱建物跡5棟 土坑 杭列跡 河川跡 溝跡 柱穴 | 凹石 須恵器(蓋・坏・高台付坏・壺・甕) 土師器(坏・甕) 砥石 布製品 | | | 総出土箱数6箱 |

図 版



平成11年度調査区（北から）



C区面精査作業（西から）



重機による表土除去（西から）



A区調査状況（西から）



B区セクション図作成作業（南から）



B区調査状況（南西から）



B区基本層序（南から）



B区基本層序（南から）



A区造構完掘状況（南東から）



C区造構完掘状況（東から）



A区 SB196調査状況（北から）



A区 SB196検出状況（西から）



A区 SB196 EB2柱根（東から）



SB196 EB1土層断面（北東から）



SB196 EB3土層断面（南から）



B区 SB232発掘状況（南から）



B区 SB232検出状況（南から）



SB232 EB2土層断面（南から）



SB232 EB6土層断面（東から）



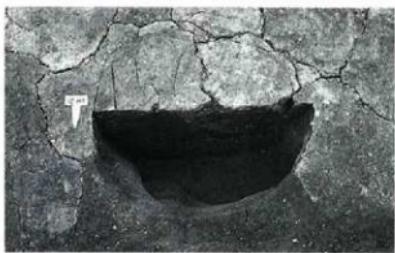
SB232 EB7土層断面（南から）



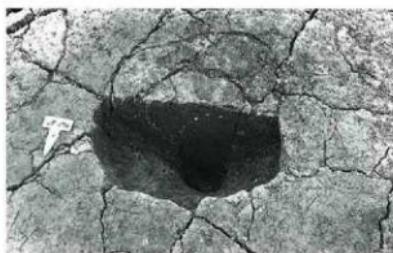
SB5検出状況（南から）



SB5完掘状況（南から）



SB5 EB5土層断面（南から）



SB5 EB6土層断面（南から）



SB202完掘状況（南から）



SB202 EB1土層断面（南から）



SB202 EB6土層断面（南東から）



SB202 EB2土層断面（南から）



SB203 EB1 土層断面 (北から)



SB203 EB2 土層断面 (南から)



SB203 EB3 土層断面 (東から)



SB203 EB4 土層断面 (西から)



SK177 検出状況 (北東から)



SK177・178 完掘状況 (南から)



SK177 東西土層断面 (南から)



SK177 東西土層断面 (南から)



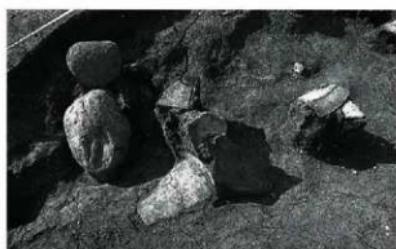
SK186検出状況（南から）



SK186完掘状況（南東から）



SK186土層断面（南東から）



SK186遺物出土状況（南東から）



SK191土層断面（南西から）



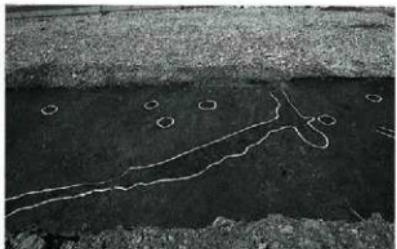
SP201土層断面（南から）



SK191南北土層断面（東から）



SK191調査状況（東から）



SA282検出状況（南から）



SA282土層断面（南西から）



SA282杭跡検出状況（北から）



A区 SA282完掘状況（北東から）



SD235土層断面（南から）



SD235土層断面（西から）



SD235完掘状況（南西から）



SD95土層断面（南西から）



SD232検出状況（南東から）



SD157・SP159土器出土状況（北東から）



SD256土層断面（南東から）



SP240土層断面（南から）



A区 SG検出状況（南東から）



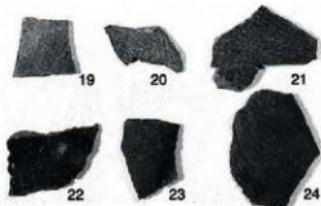
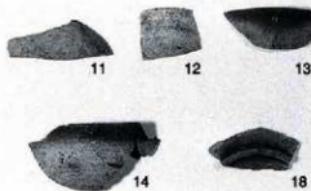
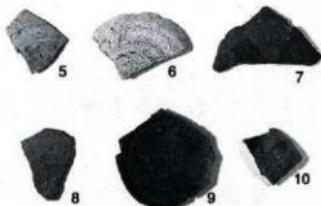
A区 SG遺物出土状況（北東から）

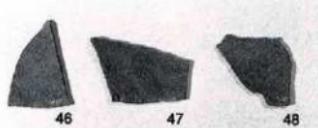
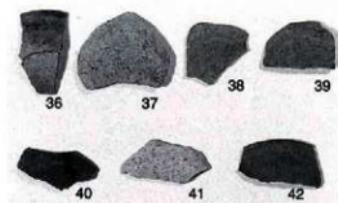
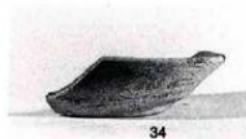
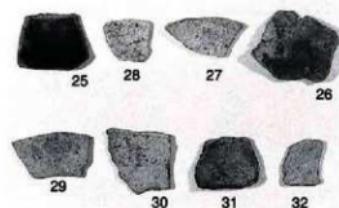
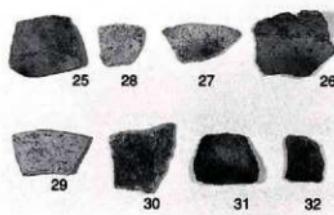


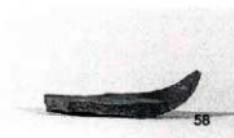
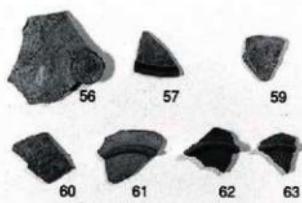
B区 SG遺物出土状況（北東から）

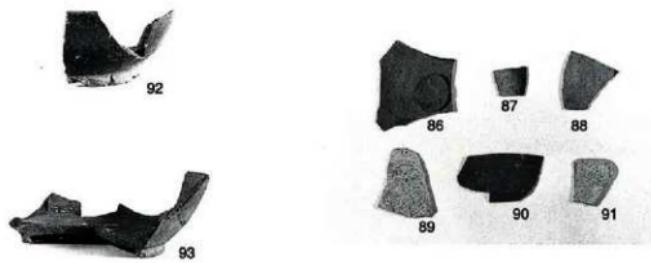
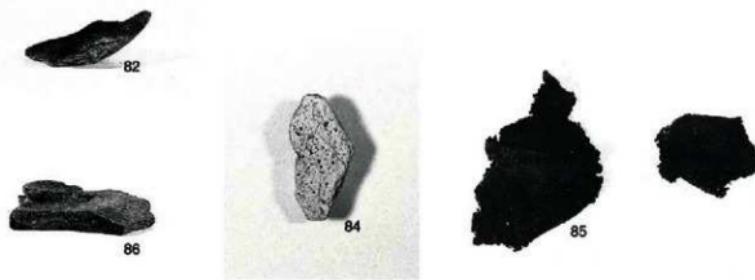
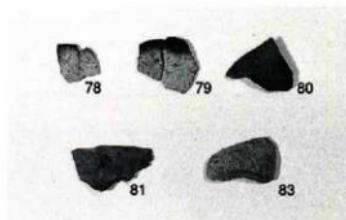
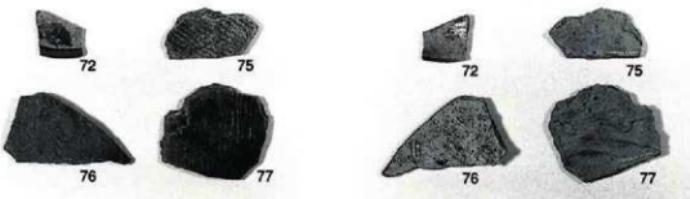


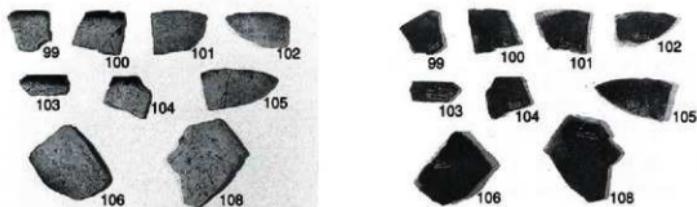
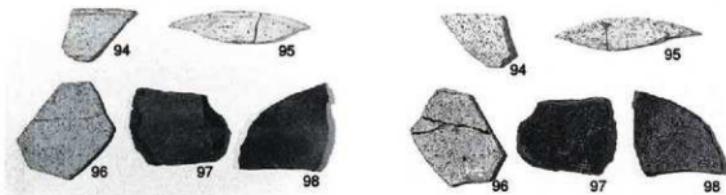
B区 SG土層断面（南から）

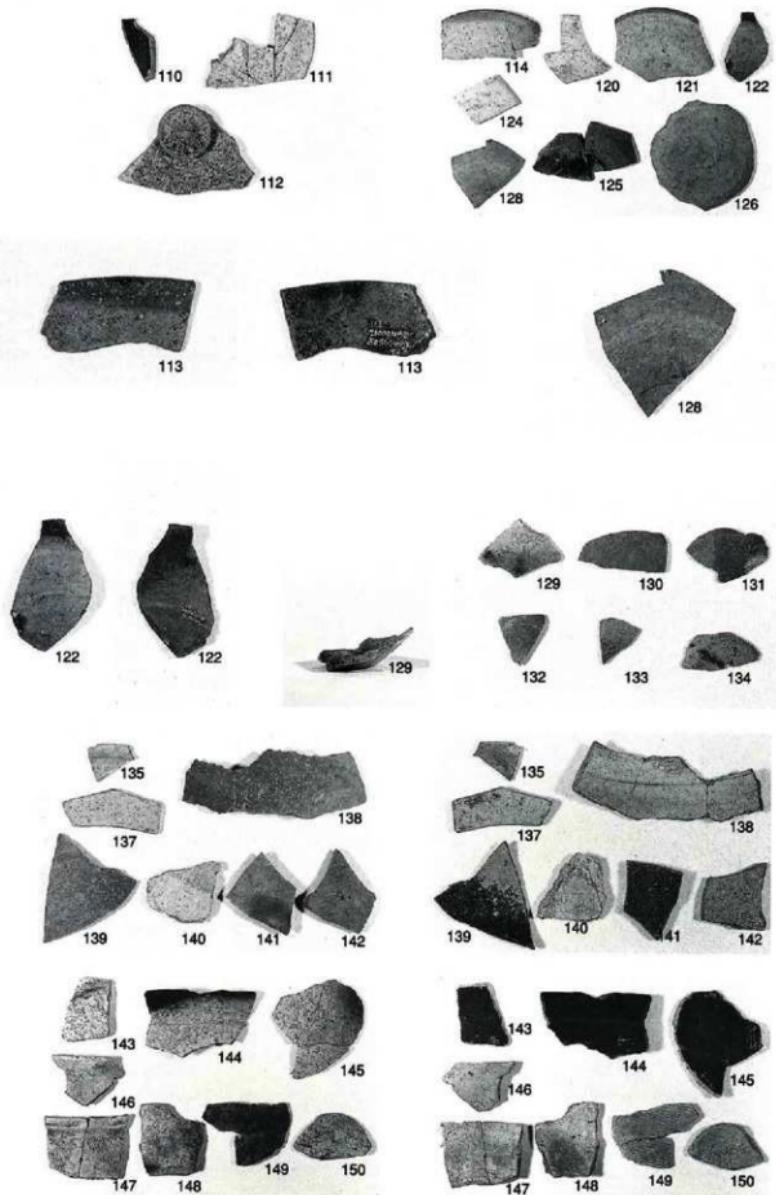


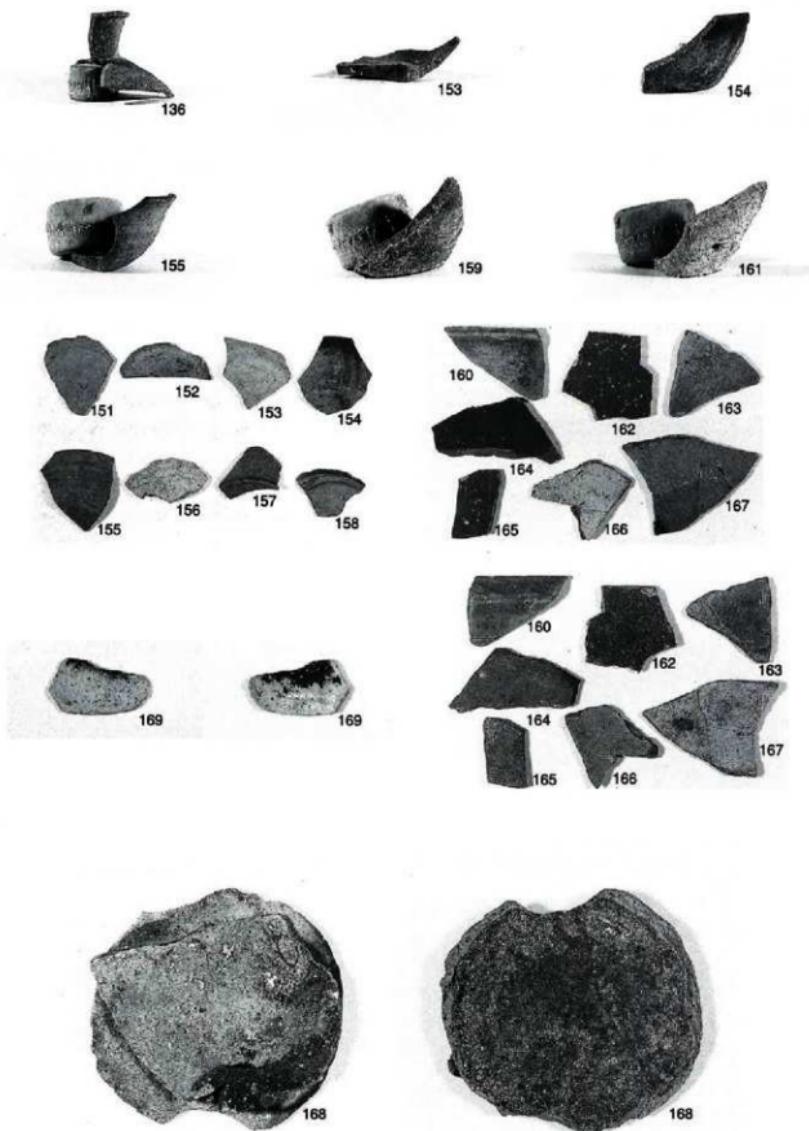


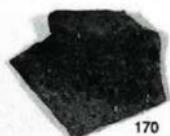












吉原Ⅲ遺跡
店舗建設工事に伴う発掘調査報告書

2001年3月発行

発行 株式会社 東北ケーズデンキ
茨城県水戸市柳町一丁目13番20号
TEL029-224-9600 ☎310-0817

山形市教育委員会
山形市旅籠町二丁目3番25号
TEL023-641-1212 ☎990-8540

印刷 有限会社 山形コピー
山形市鉄砲町一丁目1番38号
TEL023-632-1066 ☎990-2492
